

令和6年度全国学力・学習状況調査の結果（概要）

文部科学省・国立教育政策研究所

目次

1.	令和6年度全国学力・学習状況調査の概要	2
2.	教科に関する調査結果	4
	（1）小学校国語	4
	（2）中学校国語	9
	（3）小学校算数	15
	（4）中学校数学	22
3.	質問調査結果（児童生徒、学校）	28
	（1）学習指導要領の趣旨を踏まえた教育活動の取組状況	28
	①主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善	28
	②個別最適な学び・協働的な学び	32
	③カリキュラム・マネジメント	35
	（2）ICTを活用した学習状況	36
	①ICTの活用状況等	36
	②ICT機器活用の効力感	40
	（3）学習に対する興味・関心や授業の理解度	43
	①理科に関する状況	43
	②英語に関する状況	44
	（4）児童生徒の挑戦心・自己有用感・幸福感等に関する状況	45
	（5）学校外での過ごし方（勉強時間、テレビゲーム等の時間）	47
4.	文部科学省の主な取組一覧	50

調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、

- 全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

調査概要

調査日時	令和6年4月18日（木）
調査対象	小学校6年生、中学校3年生
調査事項	①児童生徒：教科調査〔国語、算数・数学〕 / 質問調査 ②学 校：質問調査
調査問題	・ 学習指導要領で育成を目指す、知識及び技能や思考力、判断力、表現力等を問う問題を出題。 ・ 各大問において「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善のメッセージを発信。
今年度の調査の特徴	・ 児童生徒質問調査について、全面的にオンラインによる回答方式で実施。

◆ 調査対象及び集計対象 児童生徒数・学校数 ◆

	小学校				中学校			
	調査対象 児童数(※1)	集計対象 児童数(※2)	調査対象 学校数	集計対象 学校数(※2)	調査対象 生徒数(※1)	集計対象 生徒数(※2)	調査対象 学校数	集計対象 学校数(※2)
公立	1,009,751人	947,579人	18,529校	18,468校 (99.7%)	967,619人	875,952人	9,347校	9,268校 (99.2%)
国立	6,377人	6,173人	75校	75校 (100%)	9,973人	9,291人	80校	78校 (97.5%)
私立	13,373人	6,637人	246校	130校 (52.8%)	83,648人	18,805人	801校	257校 (32.1%)
合計	1,029,501人	960,389人	18,850校	18,673校 (99.1%)	1,061,240人	904,048人	10,228校	9,603校 (93.9%)

(※1) 調査対象児童生徒数について、公立及び国立は、調査実施前に学校から申告された児童生徒数、私立は、令和5年度学校基本調査による。調査当日までに増減した可能性がある。

(※2) 集計対象児童生徒数・学校数は、4月18日に調査を実施した数。集計対象児童生徒数は、回収した解答用紙が最も多かった教科（小学校：算数、中学校：数学）の解答用紙の枚数で算出。

教科に関する調査結果概要

教科に関する調査の結果のポイント

【国語】

- 事実と感想、意見との区別が明確でないなど、自分の考えを伝えるための書き表し方の工夫に課題が見られた。
- 自分の考えなどを記述していても、必要な情報を取り出すことや表現の効果を考えることに課題が見られた。

→小・中学校を通じた効果的な資質・能力の育成のため、記録、要約、説明、論述、話し合い等の言語活動を工夫することが重要。

【算数・数学】

- 図形や単位量当たりの大きさ（速さなど）について、深い理解を伴う知識の習得やその活用に課題が見られた。
- 複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに課題が見られた。

→日常生活を絡めながら、活用できる知識・技能を習得させることが重要。また、データの活用については、小学校段階からデータを言葉と数を使って表現する力を身に付けさせることが重要。

◆全国（国公私）の平均正答数・平均正答率（※）

	小学校		中学校	
	国語	算数	国語	数学
令和6年度	9.5/14問 (67.8%)	10.2/16問 (63.6%)	8.8/15問 (58.4%)	8.5/16問 (53.0%)
【参考】令和5年度	9.4/14問 (67.4%)	10.0/16問 (62.7%)	10.5/15問 (70.1%)	7.7/15問 (51.4%)

(※) 各年度の問題の難易度を厳密に調整する設計とはしておらず、年度によって出題内容も異なることから、過年度の結果と単純に比較することは適当ではないことに留意が必要。

問題作成の
ポイント

学習指導要領で育成を目指す資質・能力を踏まえ、測定しようとする資質・能力を発揮することが求められる言語活動を展開する文脈を重視して出題している。今年度は、

- 「書くこと」について、目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる問題を出題した。
- 令和5年度までの調査で課題が認められた内容（情報と情報の関連付けなど）について状況を確認するため、問題（大問2一(2)）を出題した。

結果のポイント

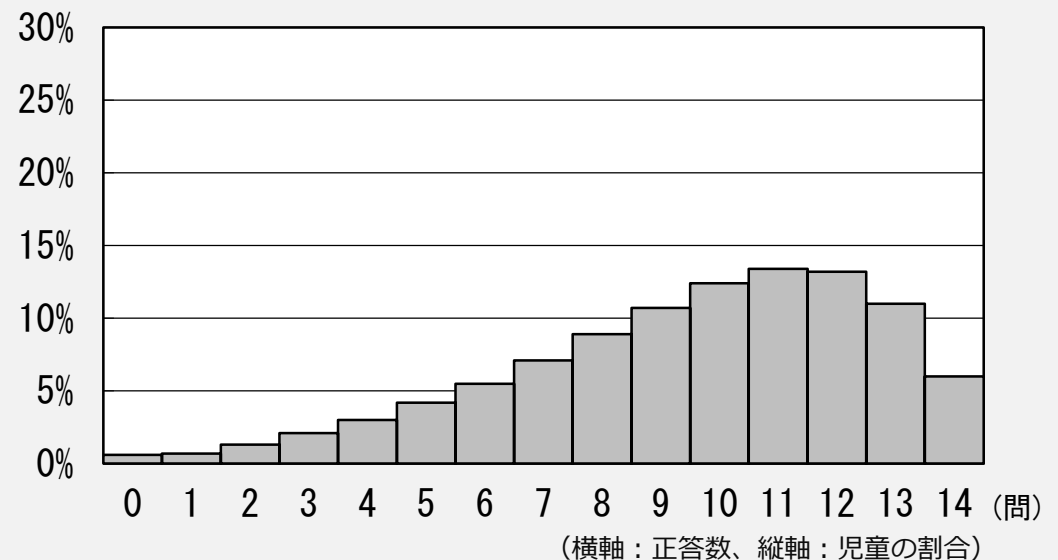
- 【pp.5-6】多くの児童が取り組んでいる記述問題もあるが、目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるようにするための書き表し方の工夫に課題がある。伝えたいことを明確にし、客観的な事実を取り上げることで考えをより深めていくことができるようにする指導の充実が大切である。
- 【p.7】人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができている。
- 【p.8】情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解することができている。

〈分類・区分別集計結果〉

分類		区分	対象 問題数 (問)	平均 正答率 (%)
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	4	64.6
		(2)情報の扱い方に関する事項	1	87.0
		(3)我が国の言語文化に関する事項	1	74.8
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	59.9
		B 書くこと	2	68.5
		C 読むこと	3	70.8
評価の観点		知識・技能	6	70.0
		思考・判断・表現	8	66.2
問題形式		選択式	10	70.0
		短答式	2	59.9
		記述式	2	64.7

〈小学校国語の児童の正答数分布グラフ〉

平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差	最頻値
9.5問/14問	67.8%	10.0問	3.1問	11問



分析のポイント① (課題)

目的や意図に応じて、自分の考えが伝わるようにするための書き表し方を工夫することに課題がある。

具体的な設問例 大問 2 二

「たてわり遊び」に関する高山さんの文章の空欄に、次の条件に合わせた内容を書く。

条件① 「たてわり遊び」のよさについて考えたことを書くこと。

条件② 下級生に聞いたことから言葉や文を取り上げて書くこと。

【高山さんの文章】

みんな仲良し「たてわりはん」

わたしたちの学校には、1年生から6年生までのメンバーが、同じはんで活動する「たてわりはん」の取り組みがあります。「運動会」や「たてわり遊び」を通して、ちがう学年の人とも仲良くなります。

「運動会」は、「たてわりはん」ごとに赤、青、黄の色を決め、3色対こうで行います。上級生が下級生に応えんの仕方を教えたり、下級生も楽しめるように、アきょうぎの作戦を考えたりします。「みんなでつな引きをして楽しい」という2年生や、「下級生といっしょに応えんして熱い気持ちになる」という5年生がいます。このように、「運動会」のよいところは、みんなの心が一つになるところだと思います。

「たてわり遊び」は、毎月1回、休み時間に「たてわりはん」で遊ぶ活動です。みんなが楽しめるように、6年生が、遊びたいことを下級生に聞いたり、ルールをくふうしたりします。例えば、ドッジボールでは、上級生が遠くからボールをイなげるようにしています。

【高山さんの取材メモ】

「たてわり遊び」について

6年生がくふうしていること

○遊びたいことを下級生に聞く

○ルールをくふうする

ドッジボール 上級生は遠くからボールをなげる

下級生に聞いたこと

○1年生 お兄さんやお姉さんと遊べて楽しかった

○3年生 好きな遊びや新しい友達が増えた

○4年生 みんなが楽しそうであれしかった

【高山さんの考え】

「たてわり遊び」と「運動会」は、どちらも1年生から6年生までが同じ「たてわりはん」で活動していて、みんなが仲良しになる。このことが学校の一番の良さだと思うから、文章に書こう。



高山さん

解答の分析

無解答率4.9%

<p>正答例 (正答率) 56.7%</p>	<p>「お兄さんやお姉さんと遊べて楽しかった」という1年生や、「みんなが楽しそうであれしかった」という4年生がいます。このように、「たてわり遊び」のよいところは、<u>学年をこえた交流ができる</u>ところだと思います。</p>
<p>誤答例</p>	<p><u>たてわり遊びをしている下級生の1年生は「お兄さんやお姉さんと遊べて楽しかった」</u>や、<u>3年生は「好きな遊びや新しい友達が増えた」と答えてくれました。</u>このように、<u>みんなでたてわり遊びをしました。</u></p>

○誤答例の解説

このように解答した児童の中には、「たてわり遊び」のよさを認識しているものの、そこから自分の考えをもつことができず、事実と感想、意見とを明確に区別せずに、事実を自分の考えのように書いてしまった児童がいたと考えられる。

関連する過去の問題

令和3年度 大問3二

「そうじたん当の人などがかたづければよい」と考える人を説得するために、【西田さんの話】を踏まえて、次の条件に合わせた内容を書く。

条件①「そうじたん当の人などがかたづければよい」に対する反対の意見と理由を書くこと。

条件②【西田さんの話】から言葉や文を取り上げて書くこと。

正答例 (正答率) 56.7%	<p>しかし、<u>遊具置き場のそうじは、かたづけで時間が足りなくなり、はきそうじやふきそうじに手が回らないことがあるそうです。たん当の人だけに任せると大変なのでわたしは、使った人がかたづけるべきだと思います。</u></p>
誤答例	<p>①<u>ぼくは、一人一人がしっかり責任を持ってかたづけるべきだと思います。なぜならそうじのたん当が大変になってしまうし、しっかりかたづけたら次に使う人が気持ちよく使えるからです。</u></p> <p>②<u>そうじたん当の人がかたづければよいという人がいるかもしれませんが、わたしは反対です。道具置き場のそうじをたん当している西田さんは、毎日、協力して遊具をかたづけています。</u></p>

○誤答例の解説

誤答例①のように解答した児童は、「そうじたん当の人などがかたづければよい」という考えに反対する意見とその理由は書いているが、【西田さんの話】から言葉や文を取り上げて書いていない。誤答例②のように解答した児童は、「そうじたん当の人などがかたづければよい」という考えに反対する意見は書いており、【西田さんの話】から言葉や文を取り上げて書いている。しかし、反対する理由を書いていない。

本設問は、異なる立場である考えに対して、反対する意見を伝えるために、反対する理由や事例を取り上げて書くことが求められていた。

これに関連して、令和6年度調査大問2二を出題したが、引き続き課題が見られる結果となった。

【西田さんの話】（遊具置き場のそうじ担当）

毎日、そうじ担当が協力して遊具をかたづけています。でも、そのために時間が足りなくなってしまう、はきそうじやふきそうじまで手が回らなくなることもあります。そんなときは、きれいにそうじができなくて困ります。

丸山 理子

西田さん

【文章の下書き】

二人 丸山さんは、部「そうじたん当の人などがかたづければよい」と考える人を説得するために、「西田さんの話」を用いて「文章の下書き」の部をくわしく書き直そうとしています。あとの条件に合わせて書きましよう。

一人 一人一人が責任をもってかたづけよう

きちんとかたづけることが大切ならば、そうじたん当の人などがかたづければよいという考えもあるかもしれません。確かに、たん当が決まっていれば、その人がかたづけてくれるでしょう。しかし、わたしは、使った人がかたづけるべきだと思います。

指導改善のポイント

自分の考えと理由や事例との関係を明確にしたり、事実と感想、意見とを区別して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫したりすることに関する指導の充実が大切である。

- 文章を書く目的や意図に応じて伝えたいことを明確にし、客観的な事実を取り上げることで考えをより深めていくことができるようにする指導
- 取り上げた事実が、自分の考えを裏付けるものになっているかどうかを振り返り、事実と考えとの関係を明確にできるようにする指導

「令和6年度【小学校国語】報告書」大問2 授業アイデア例

https://www.nier.go.jp/24chousakekkahoukoku/report/data/24plang_ida_02.pdf#page=11



分析のポイント② (成果)

人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることはできている。

具体的な設問例

大問 3 三

【物語】を読んで、心に残ったところとその理由をまとめて書く。

条件① 心に残ったところと、心に残った理由を書くこと。

条件② 【物語】から言葉や文を取り上げて書くこと。

解答の分析

無解答率12.5%

正答例

(正答率
72.7%)

①「わしが食って生きているのは、朝日のひかりだよ」と言ったのが心に残った。理由は、素直なハエの女の子を見て、自分が食べているのはハエと言えず、朝日のひかりを食べていると言った温かさに感動したからだ。

②ぼくは、「まわりの林では、小鳥たちが朝の歌をうたいはじめました」という言葉が心に残りました。なぜなら、オニグモじいさんの心が少しうれしそうなことを表していると思ったからです。

正答例①のように解答した児童は、登場人物の行動や会話、様子などから、人物像や物語などの全体像を具体的に想像し、自分の考えを明らかにすることができたと考えられる。

正答例②のように解答した児童は、場面の移り変わりとともに変化していく登場人物の気持ちと合わせて、情景について具体的に想像することができたと考えられる。

誤答例

①わたしは、オニグモじいさんの「巣が、かぞえきれないほどの小さなおひさまでできているようだ」という言葉が心に残りました。

②朝自分の巣がどのように見えるかと外へ出る中で、ハエの女の子がやってきて、自然のきびしさを教えようとした話。

○誤答例の解説

誤答例①のように解答した児童の中には、「心に残ったところ」はあるものの、「心に残った理由」を言語化できなかった児童がいたと考えられる。

誤答例②のように解答した児童の中には、物語の内容を書いたものの、それを「心に残ったところ」として書くことができなかった児童がいたと考えられる。

三 原さんは、鳥さんと話し合ったあと、「物語」を読んで、心に残ったところとその理由をまとめています。あなたなら、「物語」を読んで、心に残ったところとその理由をどのようにまとめますか。次の条件に合わせて書きましょう。

(条件)
○ 心に残ったところと、心に残った理由を書くこと。
○ 「物語」から言葉や文を取り上げて書くこと。
○ 六十字以上、百字以内にまとめて書くこと。

※左の原稿用紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。※の印から書きましょう。どちらの行を変えないで、続けて書きましょう。



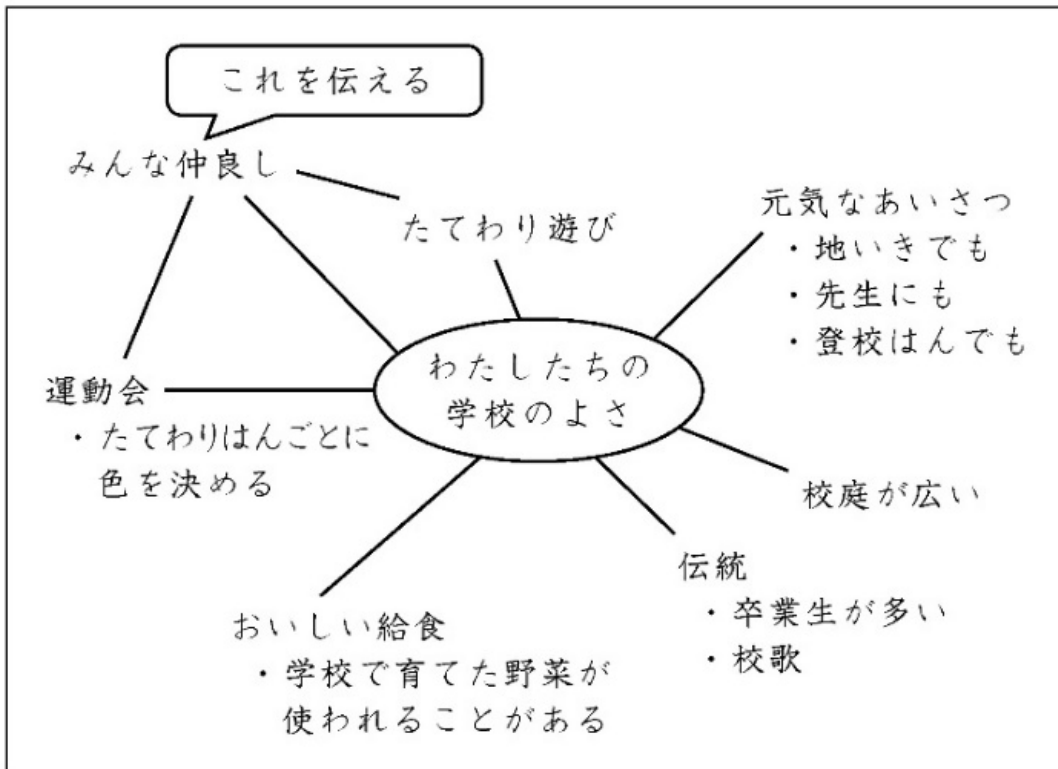
分析のポイント③ (成果)

情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解することができている。

具体的な設問例 大問2ー(2)

文章を書くために用意した【メモ】（「わたしたちの学校のよさ」という言葉が中央にあり、周辺の複数の言葉と線でつながれている）において、記された言葉同士の間接関係を捉えることができるかを問う問題。

【高山さんのメモ】



解答の分析

【高山さんのメモ】の書き表し方を説明したものとして、適切なものを選択する。

[正答率：87.0%]

- 1 出来事が起こった順に言葉を線でつないでいる。 …5.0%
- 2 **中央の言葉と関係する言葉を線でつないでいる。**
- 3 似ていることがらをまとめて丸で囲んでいる。 …4.9%
- 4 よい点と問題点を分けて丸で囲んでいる。 …2.1%

☞「令和6年度【小学校国語】報告書」大問2 授業アイデア例

https://www.nier.go.jp/24chousakekkahoukoku/report/data/24plang_idea_02.pdf#page=11



問題作成の
ポイント

学習指導要領で育成を目指す資質・能力を踏まえ、測定しようとする資質・能力を発揮することが求められる言語活動を展開する文脈を重視した。今年度は、

- 言語活動の充実が図られてきている状況を踏まえ、話し合いでの発言や文章から目的に応じて必要な情報を取り出したり、目的に応じて文章を工夫して書いたりすることができるかを問う問題を複数出題した。

結果のポイント

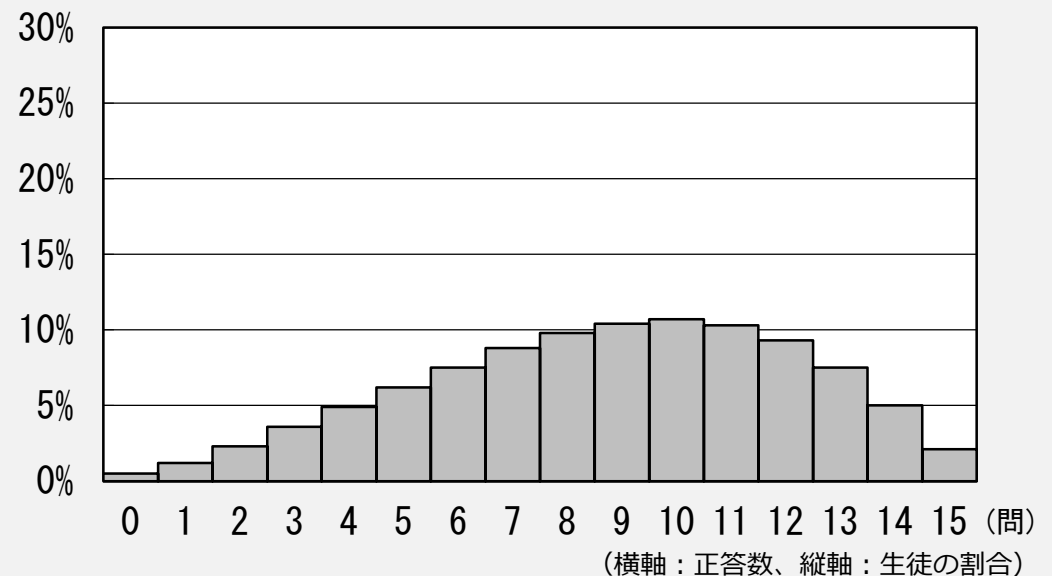
- 【pp.10-12】多くの生徒が取り組んでいる記述問題もあるが、目的に応じた内容になっていない解答も見られる。自分が表現した内容を確認し、目的に照らし合わせて改善することができるよう指導することが大切である。
- 【p.13】文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することに課題がある。図表がある場合とない場合を比較し、考えたことを説明し合うことで、筆者が図表などを用いた意図を考えることができるように指導することが有効である。

〈分類・区分別集計結果〉

分類		区分	対象 問題数 (問)	平均 正答率 (%)
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	3	59.5
		(2)情報の扱い方に関する事項	2	59.9
		(3)我が国の言語文化に関する事項	1	75.7
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	59.1
		B 書くこと	2	65.7
		C 読むこと	4	48.3
評価の観点		知識・技能	6	62.4
		思考・判断・表現	9	55.8
問題形式		選択式	9	61.3
		短答式	3	62.2
		記述式	3	46.1

〈中学校国語の生徒の正答数分布グラフ〉

平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差	最頻値
8.8問/15問	58.4%	9.0問	3.4問	10問



分析のポイント① (課題)

目的や話題に応じた内容になっていない解答が見られる。具体的には、自分の考えが話し合いの話題や発言の内容とどのように結び付いているのか、つながりが分かるようにまとめることに課題がある。

具体的な設問例

大問 1 四

「フィルターバブル現象」に関する生徒たちの話し合いを受け、自分ならどのような考えを述べるかを記述する。その際、次の条件に従う。

条件1：フィルターバブル現象の特徴について取り上げながら、これからどのように本を選びたいかを具体的に書くこと。

条件2：【話し合いの一部】の誰の発言と結び付くのが分かるように書くこと。

藤田さん：私は、この前、インターネットで和菓子作りの本を探して購入しました。そのあと、インターネットを利用するたびに、和菓子作りに関する本が表示されるようになって、次に読みたい本もすぐに見付かりました。

今井さん：たくさんの本がある中で、自分の好みに合った本を選んで示してくれるのは、便利ですね。でも、他の本の情報に触れにくくなるのでは感じませんか？

藤田さん：そうですね。言われてみれば、和菓子作りに関する本がたくさん表示されていたので、最近、それ以外の本の情報にあまり触れていなかった気がします。(国)のこのあたりにいるような感覚ですね。今井さんは、ふだんどうやって本を選んでいらっしゃるのですか？

今井さん：私は、図書館や書店で本を選んでます。読みたい本を見付けるのには時間がかかりますが、本棚を眺めていると、思いがけない本との出会いがあって興味が出ると感じています。

藤田さん：図書館や書店でいろいろな本棚を眺めながら本を選ぶと、時間はかかっても、情報が届くような状態にはならないでしょうね。

山岡さん：そうですね。インターネットでも様々な人がおすすめの本を紹介しているウェブページがありますが、そこで紹介されている本は、本を探している人の好みによって選ばれているわけではないので、フィルターバブル現象の影響は受けにくいのではないのでしょうか。

今井さん：そのような本の選び方は、学校図書館で、おすすめの本のコーナーから本を選ぶことと似てますね。おすすめの本には、その本をすすめる人の好みや考えが反映されているので、自分とは異なる価値観に触れることもできますね。

山岡さん：フィルターバブル現象のことを意識すると、本の選び方についても改めて考えてみる必要があると感じました。昔さんは、これからどのように本を選ぶと思いますか？

(国) フィルターバブル現象
自分の好み情報だけに偏り、多様な意見から距離を置かざる現象。

(解説)
インターネットで検索したり閲覧したりした履歴が、使用した通信機器などに記憶され、解析されることで、その利用者の好み情報が優先的に表示されるようになる。一方で、好まないと判断された情報は、はじかれてしまう。このような、情報の偏りが生じたり多様な意見に触れにくくなったりする状態のことを「フィルターバブル現象」という。
例えば、野球についての検索を多くしていると、次第に野球に関する情報が優先的に表示されるようになる。

山岡さん：昔さんは、【フィルターバブル現象の資料】にあるような経験がありますか？

今井さん：私の兄は、時々、インターネットで検索して本を買っているのですが、興味している書籍に関する本の表示が多くなったと言っていました。これは、フィルターバブル現象が起きているということでしょうか。

山岡さん：(解説)の例と同じような状態ですね。インターネットを利用して本を選ぶと、フィルターバブル現象の影響を受ける可能性があります。では、話題を「フィルターバブル現象と本の選び方」にして話し合ってみませんか？

今井さん：身近なテーマでいいと思います。私は、兄のようにインターネットで本を買うことはないのですが、昔さんはどうですか？

解答の分析

無解答率9.7%

正答例 (正答率) 45.1%	今井さんが言うように、 <u>フィルターバブルには好みに合った本を選んで示してくれるという便利な面もあるし、藤田さんが言うように、それ以外の本に出合いにくくなることもあるので、本を選ぶときには、インターネットと図書館などを使い分けたいと思います。</u>
誤答例	<u>山岡さんが話してくれた、様々な人がおすすめの本を紹介しているウェブページを利用して本を選んでみたいと思いました。</u>
○誤答例の解説 このように解答した生徒は、自分の考えが【話し合いの一部】の誰の発言と結び付くのが分かるように書くことと、実際に話すように書くことはできているが、フィルターバブル現象の特徴を取り上げて書くことができていない。フィルターバブル現象の特徴を理解できなかった、あるいは、理解はしていたが、話し合いの目的や話題を意識せず、フィルターバブル現象の特徴を取り上げなかった可能性がある。	

指導改善のポイント

話し合いの中で、話題を意識しながら経過を捉えて話したり聞いたりすることや、話し合いの展開に応じて、互いの発言を結び付け、話し合った内容を踏まえて自分の考えをまとめられるように指導することが大切である。

「令和6年度【中学校国語】報告書」大問1 授業アイデア例

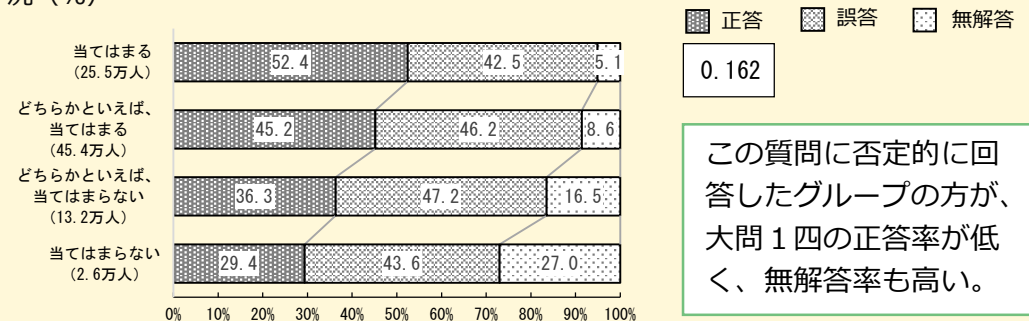
https://www.nier.go.jp/24chousakekkahoukoku/report/data/24maing_idea_01.pdf#page=11



クロス集計

生徒質問調査 × 本設問の正答率

生徒質問調査〔47〕「国語の授業で、話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめていますか」の各選択肢を選んだ生徒の本設問における解答状況(%)



この質問に否定的に回答したグループの方が、大問1四の正答率が低く、無解答率も高い。

分析のポイント③ (課題)

目的に応じた内容になっていない解答が見られる。具体的には、目的に応じて必要な情報に着目して要約することに課題がある。

具体的な設問例 大問2四

葉の形について書かれた説明的な文章を読む。そして、本文に書かれていることを理解するために、〈着目する内容〉を二つの選択肢(ア、イ)から一つ選び、それに合わせて必要な情報を取り上げながら要約する。

ア：筆者が、葉の形を表す言葉をどのようなグループに分け、各グループにどのような特徴があると述べているか。

イ：筆者が、数学や物理学などと生物学とでは、学問としてどのような違いがあると述べているか。



ささまざまな形の葉

一口に植物といっても、世の中には多様なものがあります。木でも草でもよいですが、そのなかから大きなものを片端から思い浮かべて、それぞれの葉の形を一言で表してみたい。「楕円形」「薄葉」「先のとがった」「平べったい」「丸い」「細かく裂けた」「縁がとがった」「ギザギザのある」「厚い」「針のよう」「手のひらのような」……それこそさまざまな形容があるでしょう。

では次に、これらの言葉を二つのグループに分けるとしたら、どのように分けられるでしょうか。もちろん、言葉を二つのグループに分けるやり方はいろいろあるので、何が正解、ということはありません。自由に考えてみてください。

①「問題となっているのは「形」ですから、「二次元的(平面的)な形容」「三次元的な形容」の二つに分けることはできそうです。つまり、先ほど挙げた例であれば、「楕円形」「丸い」「平べったい」「薄葉」「先のとがった」「細かく裂けた」「縁がとがった」「ギザギザのある」「針のよう」「手のひらのような」は平面的な形容で、「厚い」「平べったい」「厚はったい」は厚み方向の形容です。こうして見ると、平面的な形容のほうは数多くてバラエティーに富んでいるのに対して、厚み方向の形容は、さめて限定されている感じがします。しかも、「薄い」と「厚はったい」という正反対の言葉が入っているのが気になります。

しかし、考えてみると、誰も「サイコロが厚はったい」とは言いません。「厚はったい」も「丸い」も、平たい物質の形容であって、その形の本質は「平たい」とにあるわけです。つまり、厚み方向の形容は、その形の本質が「平たい」という点に共通しているといえます。これはどう考えたらよいのでしょうか。

八百屋さんが長ネギを賣つてきてよく観察すると、白い部分は何層にもなっていて中まで詰まっているので、実際の平面的な形は円柱です。しかし、緑色の部分はほぼ一層で、中は空っぽです。実際の形は円筒形です。葉とてその役割を果たす緑色の部分は、外側一層しかなくて、丸く湾曲しているもの、ネギも平たいといえるでしょう。やはり、三次元的な形容は「平たい」という一言に集約できそうです。

一方で、葉の形は、二次元的、平面的な形容は本質的に多様多岐です。三次元的な形容は「平たい」という共通性、普遍性を示すのに対して、二次元的な形容は、植物によって異なり、多様性を示すことができます。

この「普遍性」と「多様性」には、生き物の研究をしていると、なにかにつけてぶつかります。生物学とは違って、数学や物理学、それに化学の部は、普遍性の学問です。1+1は誰にとっても2ですし、鉄がたまに金の性質を示す、というようなことはありません。鉄は鉄、金は金です。酸素と水素が反応してできるのは水であって、たまには水ではなくて油ができてしまうという、なじみのある化学者に怒られます。

しかし、生き物を扱っている、そのように単純には物事が進みません。植物の葉は常に緑色であるといいたいところですが、モミジは秋になると紅葉しますし、園芸店に行けばいろいろな白や黄色の葉入りの葉、あるいは紫や鮮やかな葉を見つけていることができます。植物は合成で生きています。といった途端に、ナンバンギセルなどの寄生植物は違うところから突っ込みが入ります。植物の多くが緑色の葉をもって光合成をしているのは事実であって、それは植物の本質的な生き方を反映しているのですが、その本質とさえ、例外はあります。ましてや、葉の平面的な形は、植物の種類ごとに違つて、多様性の宝庫なのです。

解答の分析

無解答率8.3%

<p>正答例</p> <p>(正答率) 43.3%</p>	<p>ア：葉の形を表す言葉を、二次元的な形容のグループと三次元的な形容のグループに分け、前者には多様性、後者には共通性という特徴があると述べている。</p> <p>イ：数学や物理学などは普遍性の学問、生物学は普遍的なことにも例外のある多様性の学問という違いがあると述べている。</p>
<p>誤答例</p>	<p>①ア：筆者は、葉の形を表す言葉を、二次元的な形容のグループと三次元的な形容のグループに分けている。</p> <p>②イ：筆者は、数学や物理学には法則があるけれど、生物学には法則がないと述べている。</p>

○誤答例の解説

誤答例①は、自分を取り上げた情報をまとめて書くことはできているが、目的に応じて必要な情報を不足なく取り上げて書くことができていない。自分が要約した内容に必要な情報を十分に取り上げられているかを確認することなどができていないものと考えられる。

誤答例②は、選んだ〈着目する内容〉について、自分を取り上げた情報をまとめて書くことはできているが、本文の内容を正確に捉えて要約することができていない。自分が要約した内容と本文の内容とに齟齬がないかを見直すことができていないものと考えられる。

指導改善のポイント

要約をする際には、目的を明確にした上で、必要な情報を十分に取り上げているか、自分がまとめた内容と元の文章の内容とに隔たりがないかなどを確認しながら、適切さや正確さを意識して要約することができるように指導することが大切である。

「令和6年度【中学校国語】報告書」
 大問2 授業アイデア例
https://www.nier.go.jp/24chousakekkahoukoku/report/data/24mlang_idea_02.pdf#page=12



分析のポイント④ (課題)

文章と図とを結び付け、その関係を踏まえて内容を解釈することに課題がある。

具体的な設問例 大問 2ー

「図 さまざまな形の葉」の本文中での役割を説明したものを、1 から 4 までの選択肢の中から二つ選ぶ。

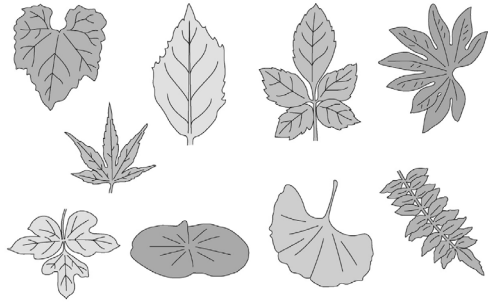


図 さまざまな形の葉

- 「図 さまざまな形の葉」の本文中での役割を説明したものと適切なもの、次の1から4までのの中から二つ選びなさい。
- 4 葉の形を表す言葉の中では厚み方向の形容が限定的であること
の根拠を示す役割。
 - 3 葉の形を表す言葉を二つのグループに分けるやり方が複数ある
ことを示す役割。
 - 2 実際の葉の形とそれを表す言葉とを結び付けて捉えられるよう
にする役割。
 - 1 実際の葉の形をたくさん思い浮かべることができるように補助
する役割。

解答の分析

正答例 (正答率) 36.7%	1、2両方を解答しているもの
誤答例	① 1と解答しているが、2と解答していないもの ② 2と解答しているが、1と解答していないもの
<p>○誤答例の解説</p> <p>誤答例①のように解答している生徒は、図と第一段落とを結び付けて読むことで、読み手が実際の葉の形をたくさん思い浮かべることができるよう、補助する役割をもつことを捉えることはできているが、第二段落で著者が例示している「さまざまな形容」と結び付けて読むことで、実際にどのような形なのかを、読み手が具体的に捉えることができるようにする役割をもつことを捉えていないものと考えられる。</p> <p>誤答例②のように解答している生徒は、図と第二段落で筆者が例示している「さまざまな形容」とを結び付けて読むことで、実際にどのような形なのかを、読み手が具体的に捉えることができるようにする役割をもつことを捉えることはできているが、第一段落と結び付けて読むことで、読み手が実際の葉の形をたくさん思い浮かべることができるよう、補助する役割をもつことを捉えていないものと考えられる。</p>	

指導改善のポイント

図表や写真などを含む説明的な文章を読む際には、示されている図表などが、文章のどの部分と関連しているのかを確認するなどして、書き手の伝えたい内容をより正確に読み取ることが重要である。また、図表がある場合とない場合を比較し、考えたことを説明し合うことで、筆者が図表などを用いた意図を考えることができるように指導することが有効である。

「令和6年度【中学校国語】報告書」【コラム①】「読むこと」での学びを広げる・深める

https://www.nier.go.jp/24chousakekkahoukoku/report/data/24mlang_idea_02.pdf#page=5

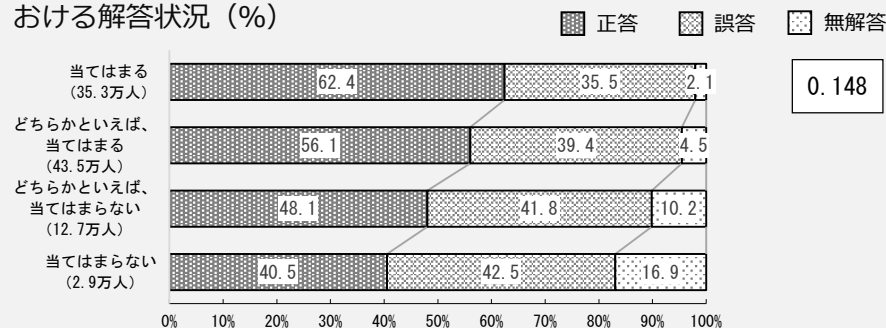


国語科における言語活動を通じた資質・能力の育成について

- 平成20年改訂学習指導要領以降、国語科を要とする全ての教科等において、記録、要約、説明、論述、話し合い等の「言語活動」を重視し、充実を図ってきた。
- 国語科の指導内容は、螺旋的・反復的に繰り返しながら学習し、資質・能力の定着を図ることを基本としているため、平成29年改訂小・中学校学習指導要領「国語」においては、小・中学校を通じて、指導内容の系統化を図った。また、学習過程を一層明確にし、各指導事項を位置付けることで、ただ活動するだけにならないよう、言語活動を通じてどのような資質・能力を育成するのかを示すとともに、自分の考えを形成する学習過程を重視し、「考えの形成」に関する指導事項を位置付けている。
- 今回の小・中学校国語の調査では、話し合いでの発言や、文章から、目的に応じて、必要な情報を取り出してまとめたり、文章を工夫して書いたりすることができるかを問う記述問題を出題するなど、児童生徒が言語活動に取り組む過程で、どの程度資質・能力を発揮することができるかを問う設問を多く出題している。
- その結果、中学校では、自分の考えなどを記述することはできているが、必要な情報を取り出すことや、表現の効果を考え、説明することに課題がみられた。また、小学校では、事実と感想、意見とを明確に区別できず、自分の考えを伝えるための書き表し方の工夫に課題がみられた。
- 児童生徒質問調査と児童生徒の正答率の関係を分析すると、普段の国語の授業で、各設問が問う資質・能力を意識して発揮しているかを問う質問に、否定的に回答したグループの方が、該当する設問の正答率が低く、無解答率も高かった【下図及びpp.10-11】。また、国語科においても、個別最適な学び・協働的な学びの両方に取り組んだグループの正答率が、他のグループより高かった【p.33】。
- 今回の調査結果から得られた示唆を踏まえると、言語活動を通して効果的に資質・能力を育成するためには、児童生徒の資質・能力が螺旋的に高まるよう指導事項の系統性に留意しながら、それぞれの児童生徒の資質・能力の定着状況を把握して必要な手立てを講じるとともに、児童生徒一人一人が、どのような資質・能力を働かせるとよいのかを意識して学習を進めることができるよう、言語活動を工夫することが重要であると考えられる。

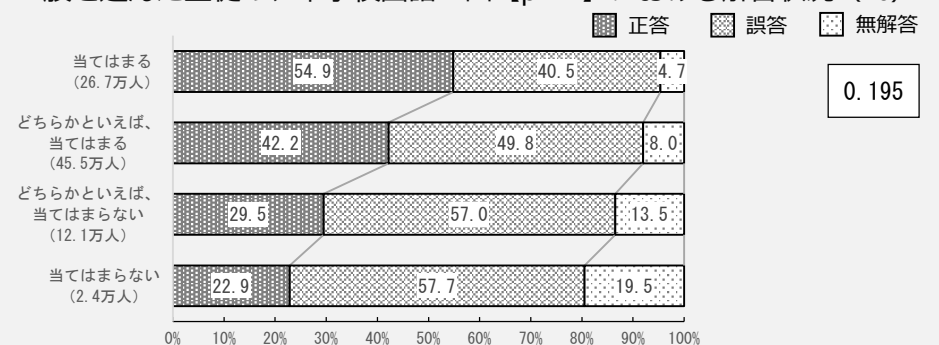
小学校

児童質問調査〔48〕「国語の授業で、目的に応じて、簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように工夫して文章を書いていますか」の各選択肢を選んだ児童の、小学校国語2二【p.5】における解答状況（％）



中学校

生徒質問調査〔49〕「国語の授業で、説明的な文章を読み、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈していますか」の各選択肢を選んだ生徒の、中学校国語2四【p.12】における解答状況（％）



問題作成の
ポイント

学習指導要領で育成を目指す資質・能力を踏まえ、「事象を数理的に捉え、算数の問題を見だし、問題を自立的、協働的に解決する過程を遂行する」という数学的活動を行う文脈を重視した。今年度は、

- 図形や割合、データの活用などにおいて、過去の調査で課題が見られた内容の学習状況を確認する問題を出題した。
- 立体図形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方や図形の性質について考察できるかどうかを問う問題を出題した。
- 日常生活の問題を解決するために、示された場面を解釈し、数量の関係について考察できるかどうかを問う問題を出題した。

結果のポイント

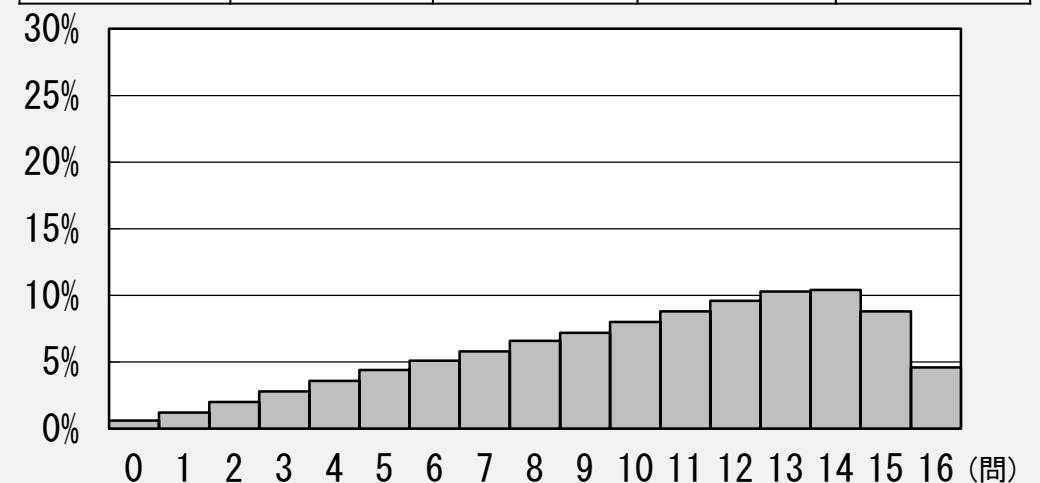
- 【pp.16-18】図形について基礎的・基本的な知識・技能は身に付いているが、深い理解を伴う知識の習得やその活用には課題がある。図形を構成する要素を見だし、活用できるように指導することが必要である。
- 【pp.19-20】速さを道のりと時間の関係から捉えることはできているが、速さの意味について理解することに課題がある。速さなど単位量当たりの大きさの意味や表し方を理解するとともに、場面や目的に応じて比べ方を考察し日常生活に生かせるように指導することが大切である。
- 【p.21】折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを記述することに課題がある。グラフを読み取り、見いだしたことを表現できるように指導することが大切である。

〈分類・区分別集計結果〉

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均 正答率 (%)
学習指導要領の 領域	数と計算	6	66.2
	図形	4	66.5
	測定	0	—
	変化と関係	3	52.0
	データの活用	4	62.0
評価の観点	知識・技能	9	72.9
	思考・判断・表現	7	51.6
問題形式	選択式	5	75.5
	短答式	7	62.3
	記述式	4	51.2

〈小学校算数の児童の正答数分布グラフ〉

平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差	最頻値
10.2問/16問	63.6%	11.0問	3.9問	14問



(横軸：正答数、縦軸：児童の割合) 15

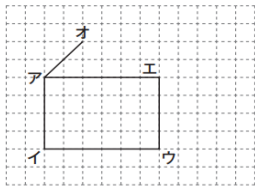
分析のポイント①
(成果)

直方体の見取り図や直径、円周の長さ、円周率の関係について理解することはできている。

具体的な設問例
大問3 (1) (2)

- (1) 作成途中の直方体の見取り図について、辺として正しいものを選択する。
- (2) 直径10cmの円柱の展開図について、側面の長方形の横の長さが適切なものを選択する。

(1) 直方体の見取り図を、方眼紙にかいていきます。
まず、下のように点アから点オまでを直方体の頂点として、かきました。



次に、下の 1 から 4 のように、点カ的位置を決めて、直方体の辺ウカをかこうとしています。辺ウカとして正しいものはどれですか。
下の 1 から 4 までの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。

Four options (1, 2, 3, 4) are shown on a grid, each showing the prism with a new edge 'ウカ' drawn from point 'ウ' to point 'カ'.

- Option 1: Edge 'ウカ' is drawn from 'ウ' to 'カ' parallel to edge 'アオ'.
- Option 2: Edge 'ウカ' is drawn from 'ウ' to 'カ' parallel to edge 'エ'.
- Option 3: Edge 'ウカ' is drawn from 'ウ' to 'カ' parallel to edge 'イ'.
- Option 4: Edge 'ウカ' is drawn from 'ウ' to 'カ' parallel to edge 'ウ'.

解答の分析

1	7.0 %
2	1.0 %
3	5.0 %
4	85.6 %
上記以外	0.9 %
無解答	0.6 %

直方体の面と面、辺と辺の位置関係に着目し、辺ウカが辺アオに平行で長さが等しいことを理解している児童がほとんどである。

(2) 図1のような円柱があります。



図1の円柱を、図2のように切り開くと、展開図ができます。



図1の円柱の展開図を、側面の形を長方形にして、工作用紙にかきます。このとき、長方形の横の長さは、円柱の底面の円周の長さと同じになります。

図1の円柱の展開図はどれですか。

下の 1 から 4 までの中から、最もふさわしいものを 1 つ選んで、その番号を書きましょう。

Four options (1, 2, 3, 4) are shown on a grid, each showing a net of the cylinder with a rectangular side face and two circular bases. The width of the rectangle is labeled as 5 cm.

- Option 1: Rectangle width is 5 cm.
- Option 2: Rectangle width is 10 cm.
- Option 3: Rectangle width is 15 cm.
- Option 4: Rectangle width is 20 cm.

解答の分析

1	4.5 %
2	12.4 %
3	71.4 %
4	10.5 %
上記以外	0.4 %
無解答	0.8 %

円周の長さが直方体の横の長さになることを捉え、円周と直径、円周率の関係について理解していると考えられる。一方で、円周の長さを直径の長さの何倍になるか見通しをもてていない児童もいる。

分析のポイント②
(課題)

球の直径の長さや立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことに課題がある。

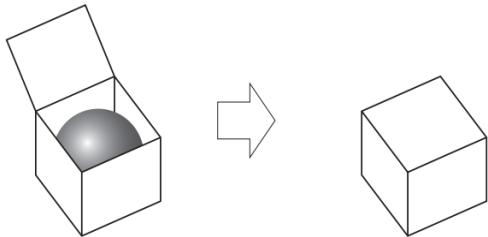
具体的な設問例
大問3 (3)

直径22cmの球がぴったり入る立方体の体積を求める式を書く。

(3) 直径 22 cm の球の形をしたボールがあります。



このボールがぴったり入る立方体の形をした紙の箱の体積を調べます。



この立方体の形をした紙の箱の体積が何 cm³かを求める式を書きましょう。
ただし、紙の厚さは考えないものとします。また、計算の答えを書く必要はありません。

解答の分析

<p>正答 (正答率 36.9%)</p>	<p>22×22×22</p>
<p>誤答例</p>	<p>① 22×22 ② 22×3.14 など 3.14 を用いた式 ③ 22×6 等</p>

○誤答例の解説

- ① 22×22と解答している児童は、球の直径の長さや立方体の一辺の長さの関係を捉えることはできているが、立方体の一つの面の面積の求め方を式にしていると考えられる。(8.5%)
- ② 22×3.14と解答している児童は、円の直径と円周率から体積を求めることができると誤って捉えていると考えられる。(15.9%)
- ③ 22×6と解答した児童は、円の直径と立方体の面の数から体積を求めることができると誤って捉えていると考えられる。

⇒体積の単位とこれまでに学習した球の直径の長さや立方体を構成する要素との関係を考察できていないと考えられることから、深い理解を伴う知識の習得に引き続き課題がある。

⇒身の回りの形から図形を捉え、図形を構成する要素を見だし、体積を求めるために必要な情報を判断できるようにすることが重要である。

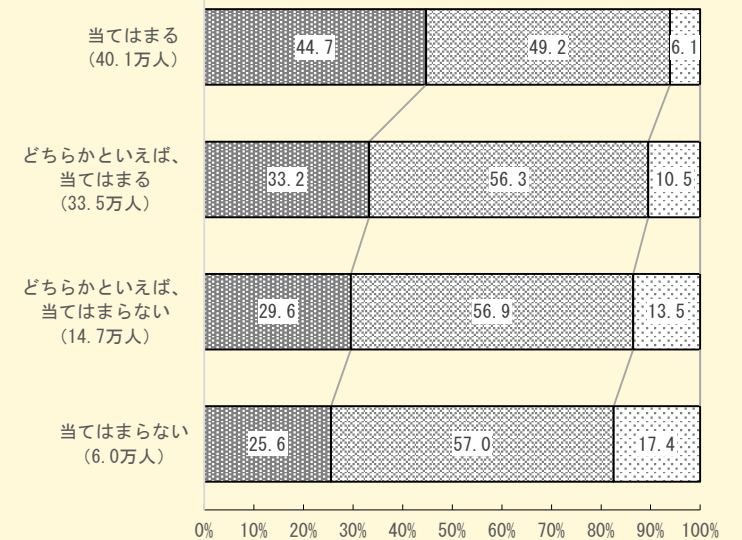
クロス集計

児童質問調査 × 本設問の正答率

児童質問調査〔54〕「算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか」の各選択肢を選んだ児童の本設問における解答状況(%)

■ 正答 ■ 誤答 ■ 無解答

0.159

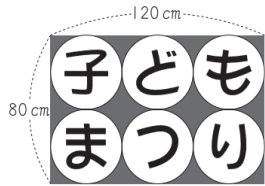


この質問に否定的に回答したグループの方が、大問3 (3) の正答率が低く、無解答率も高い。

関連する過去の問題
平成21年度 B 1 (3)

長方形の紙に書かれた6つの円の半径の求め方について、長方形の縦の長さを使った求め方を基に、横の長さを使った求め方を説明する。

(3) 下の図のように、6つの円の中に「子どもまつり」と書かれた長方形の紙があります。



紙のたての長さは80 cm、横の長さは120 cmで、図のように、紙いっぱいには6つの同じ大きさの円が書かれています。
これと同じものを作りたいので、1つの円の半径の長さが何 cm になるかを求めます。

ゆうじさんは、紙のたての長さを使って、1つの円の半径の長さを、次のように求めました。

ゆうじさんの求め方

式	$80 \div 2 = 40$ $40 \div 2 = 20$	答え	20 cm
説明	紙のたての長さは80 cmです。 円がたてに2つならんでいるので、 $80 \div 2 = 40$ で直径の長さを求めました。 半径の長さは直径の半分なので、 $40 \div 2 = 20$ で半径の長さを求めました。 だから、半径の長さは20 cmです。		

ゆうじさんと同じ求め方で、紙の横の長さを使って、1つの円の半径の長さを求めると、どのような式と説明になりますか。
下にある求め方の、2つの式の□の中には数を、()の中には言葉と式を入れましょう。それぞれ解答用紙に書きましょう。

求め方

式	$120 \div \square = \square$ $\square \div \square = \square$	答え	20 cm
説明	紙の横の長さは120 cmです。 ※ 解答は、すべて解答用紙に書きましょう。 だから、半径の長さは20 cmです。		

解答の分析

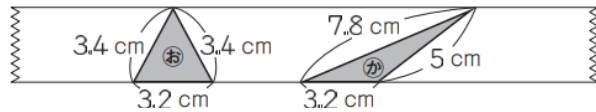
正答率	30.5%
過去の調査においては、円の直径の長ささと長方形の長さの関係性を捉えることに課題があった。	

過去の調査問題の結果より見えてくること

令和5年度 2 (4) 高さが等しい三角形について、底面と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を記述できるかどうかをみる問題

正答率	21.1%
-----	-------

(4) えいたさんたちは、テープを直線で切って、下のような㊸と㊹の2つの三角形をつくります。



上の㊸と㊹の三角形の面積について、どのようなことがわかりますか。

下の 1 から 4 までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。
また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

- ㊸の面積のほうが大きい。
- ㊹の面積のほうが大きい。
- ㊸と㊹の面積は等しい。
- ㊸と㊹の面積は、このままでは比べることができない。

図形を構成する要素を見だし、活用することに課題がある。

指導改善のポイント

身の回りの形から図形を捉え、図形を構成する要素を見だし、体積を求めるための必要な情報を判断できるようになることが重要である。

「令和6年度【小学校算数】報告書」 大問3 授業アイデア例
https://www.nier.go.jp/24chousakekkahoukoku/report/data/24pmath_idea_03.pdf#page=14



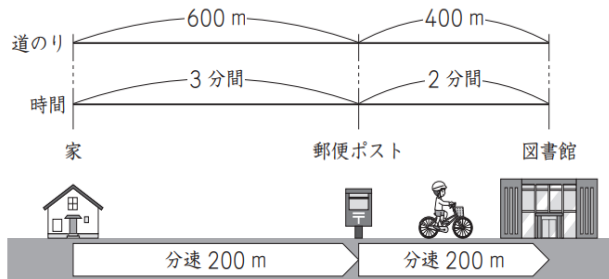
分析のポイント③ (課題)

速さの意味について理解することに課題がある。

具体的な設問例 大問 4 (4)

自転車で、家から郵便ポストまで分速200m、郵便ポストから図書館まで分速200mで走った場合において、家から図書館までの分速は何mになるかを求める。

(4) たけるさんは自転車で、家から郵便ポストの前を^{りゆうびん}通って図書館まで行きました。家から図書館まで、5分間かかりました。



家から郵便ポストまでは、道のりは600mで、3分間かかり、速さは分速200mでした。

郵便ポストから図書館までは、道のりは400mで、2分間かかり、速さは分速200mでした。

家から図書館までの自転車の速さは、分速何mですか。
答えを書きましょう。

解答の分析

正答
(正答率)
54.4%

分速200m

誤答例

①分速400m (24.3%)
②分速1000m (3.1%)

○誤答例の解説

①速さなど単位量当たりの大きさの意味及び表し方について理解できていない可能性があると考えられる。

②道のりや時間という数量を適切に用いて計算できていないことが考えられる。

⇒速さなどの単位量当たりの大きさの意味や表し方についての理解に課題がある。

⇒速さの意味に基づいて、速さを単位時間当たりに移動する長さとして捉え、問題場面に戻って、その速さが妥当かどうか判断できるようにすることが大切である。

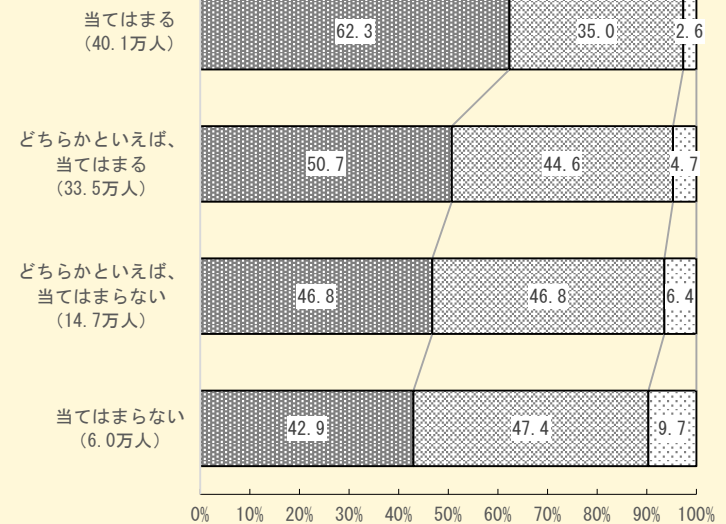
クロス集計

児童質問調査 × 本設問の正答率

児童質問調査〔54〕「算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか」の各選択肢を選んだ児童の本設問における解答状況(%)

■ 正答 ■ 誤答 ■ 無解答

0.148

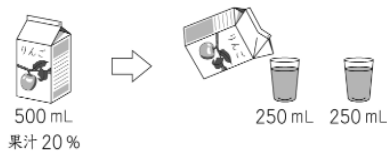


この質問に否定的に回答したグループの方が、大問4(4)の正答率が低く、無解答率も高い。

関連する過去の問題 令和4年度2(3)

果汁が含まれている飲み物の量を半分にしたときの、果汁の割合について正しいものを選ぶ。

- (3) りんごの果汁が20%ふくまれている飲み物が500 mLあります。
この飲み物を2人で等しく分けると、1人分は250 mLになります。



250 mLの飲み物にふくまれている果汁の割合について、次のようにまとめます。

250 mLは、500 mLの $\frac{1}{2}$ の量です。

このとき、

上のア)にあてはまる文を、下の1から3までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になると、果汁の割合も $\frac{1}{2}$ になります。
- 2 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になると、果汁の割合は2倍になります。
- 3 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になっても、果汁の割合は変わりません。

解答の分析

正答 (正答率) 21.6%	3 飲み物が $\frac{1}{2}$ になっても、果汁の割合は変わらない。
誤答例	1 飲み物が $\frac{1}{2}$ になると、果汁の割合も $\frac{1}{2}$ になる。 (67.7%)

○誤答例の解説

過去の調査において、示された場面の数量が変わっても割合は変わらないことを理解することに課題があった。

⇒日常の具体的な場面に対応させながら、割合について理解できるようにすることが大切である。この場面であれば、飲み物の量を半分に分けても、飲み物の濃さは変わらないという生活経験を想起できるようにすることが考えられる。

指導改善のポイント

2つの数量の関係に着目し、速さなどの単位量当たりの大きさ及び割合の意味及び表し方について理解を深めることが重要である。また、日常生活の問題場面に照らし合わせて、求めた速さなどの単位量当たりの大きさや割合の妥当性を判断できるように指導の工夫をすることが大切である。



分析のポイント④ (課題)

折れ線グラフから必要な数値を読み取り、条件に当てはまることを記述することに課題がある。

具体的な設問例 大問 5 (3)

C市で桜が開花した月が3月だった回数と4月だった回数を年代（10年間）ごとに表した折れ線グラフを読み取り、3月の回数と4月の回数のちがいが最も大きい年代がいつで、そのちがいが何回かについて記述する。

※紙面の都合上、一部問題文を改めている。

こうたさんたちは、下の折れ線グラフをもとに、気づいたことについて話し合っています。



1970年代は、3月の回数より4月の回数のほうが4回多いですね。



3月の回数と4月の回数が同じ年代がありますね。

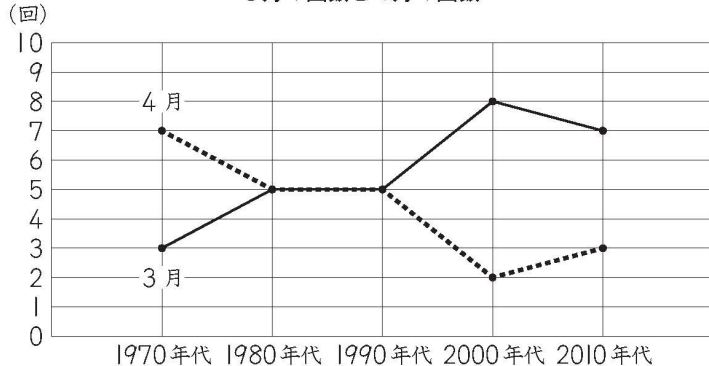


3月の回数と4月の回数のちがいが大きい年代がありますね。

下の折れ線グラフで、3月の回数と4月の回数のちがいが最も大きい年代はいつですか。また、その年代について、3月の回数と4月の回数のちがいは何回ですか。

ちがいが最も大きい年代と、その年代について、3月の回数と4月の回数が何回ちがうかを、言葉と数を使って書きましょう。

3月の回数と4月の回数



解答の分析

<p>正答例</p> <p>3月の回数と4月の回数のちがいが最も大きい年代は、2000年代で、2000年代の3月の回数と4月の回数のちがいは6回です。</p> <p>(正答率) 44.2%</p> <p>〈正答の条件〉</p> <p>① 3月の回数と4月の回数の違いが最も大きい年代が2000年代であることを表す言葉</p> <p>② 2000年代の3月の回数と4月の回数の違いが6回であることを表す数</p>
<p>誤答例</p> <p>3月の回数と4月の回数のちがいが最も大きい年代は、2000年代で、2000年代の3月の回数は2回で、4月の回数は8回です。</p>
<p>○誤答例の解説</p> <p>このように解答した児童は、3月の回数と4月の回数の違いが最も大きい年代が2000年代であることは記述できているが、2000年代の3月の回数と4月の回数を誤って記述している。</p>

指導改善のポイント

児童が必要なデータを読み取れているかを確認するために、データを読み取って捉えたことを伝え合う活動を行うことが考えられる。その際、身近な場面から興味や気付きから生じた疑問を解決できるような問題場面を設定することが大切である。

☞ 「令和6年度【小学校算数】報告書」 大問5 授業アイデア例

https://www.nier.go.jp/24chousakekkahoukoku/report/data/24pmath_idea_05.pdf#page=12



問題作成のポイント

学習指導要領で育成を目指す資質・能力を踏まえ、「事象を数理的に捉え、数学の問題を見だし、問題を自立的、協働的に解決する過程を遂行する」という数学的活動を行う文脈を重視した。今年度は、

- 大問1～5では、数学の学習過程において問題発見・解決する際の、ある局面に限定した問題を出題した。
- 大問6～9では、数学的活動を行う文脈を重視し、設定された場面において問題を数的に解決する問題を出題した。

結果のポイント

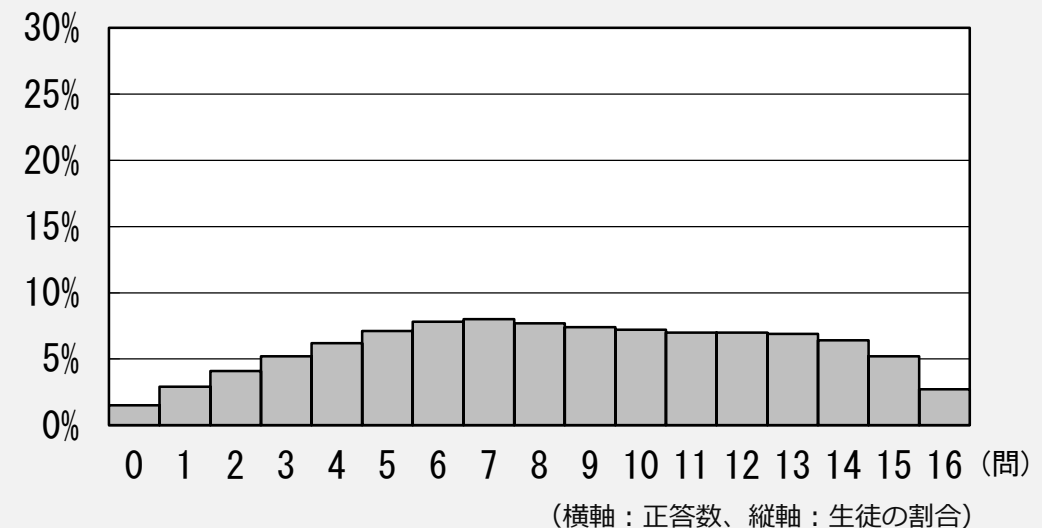
- 【pp.23-25】一次関数について、基礎的・基本的な知識・技能は身に付いていると考えられるが、問題解決の過程を数的な表現を用いて説明することに困難がみられる。問題解決する場面を設定し、表、式、グラフなど数的な表現を用いて説明できるように指導することが大切である。
- 【p.26】データの分布の傾向を比較して読み取り、判断の根拠を箱ひげ図の箱の位置や四分位数などを用いて説明することに課題がある。複数の集団のデータの分布の傾向を比較するなどの活動を通して、判断の根拠を数的な表現を用いて説明できるように指導することが大切である。

〈分類・区分別集計結果〉

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均 正答率 (%)
学習指導要領の 領域	数と式	5	51.7
	図形	3	40.9
	関数	4	61.1
	データの活用	4	55.8
評価の観点	知識・技能	11	63.5
	思考・判断・表現	5	30.0
問題形式	選択式	5	58.8
	短答式	6	67.4
	記述式	5	30.0

〈中学校数学の生徒の正答数分布グラフ〉

平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差	最頻値
8.5問/16問	53.0%	8.0問	4.2問	7問



分析のポイント① (成果)

グラフにおけるy軸との交点や、グラフの傾きの意味を事象に即して解釈することはできている。

具体的な設問例

大問8 (1) (3)

- (1) ストープの使用時間と灯油の残量の「強」の場合と「弱」の場合を表すグラフにおいて、y軸と交わる点Pのy座標の値が何を表すかを選択する。
- (3) ストープを6時間使用して、18Lの灯油をちょうど使い切るように、「強」と「弱」の設定を組み合わせた使用計画が表されたグラフを読み取り、ストーブの設定を選択したり、使用時間を書き入れたりして使用計画の文章を完成させる。

〈日常生活からの場面設定〉

- 8 第一中学校の文化祭では、会場の体育館を暖めるために、灯油を燃料とする大型のストーブを設置します。文化祭当日は、体育館を6時間使用します。文化祭の実行委員の結衣さんは、18Lの灯油が入ったストーブの使用計画を立てることになりました。ストーブの説明書には、次の情報が書かれています。

説明書の情報

ストーブの設定	強	弱
1時間あたりの灯油使用量(L)	4.0	2.5

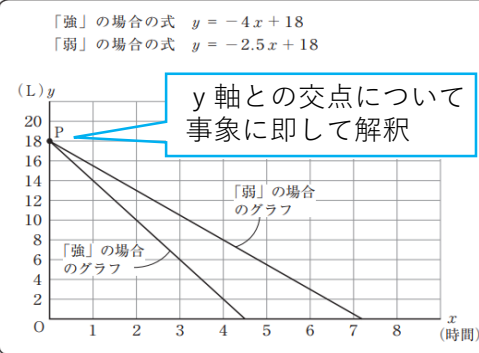
結衣さんは、ストーブを6時間使用して、18Lの灯油をちょうど使い切るように、「強」と「弱」の設定の組み合わせを考えたことにしました。そのために、18Lの灯油が入ったストーブの「強」の場合と「弱」の場合について、ストーブの使用時間と灯油の残量の関係調べることにしました。

そこで、結衣さんは、説明書の情報の1時間あたりの灯油使用量は常に一定であるとし、ストーブを使用し始めてから x 時間経過したときの灯油の残量を y Lとして、「強」の場合と「弱」の場合の x と y の関係をそれぞれ $y = 18 - 4x$ 、 $y = 18 - 2.5x$ と表しました。そして、この2つの式をそれぞれ $y = -4x + 18$ 、 $y = -2.5x + 18$ と表し直し、次のページのようなグラフをかきました。

解答の分析

正答率：(1) 83.7%

ストーブの使用時間と灯油の残量



次の(1)から(3)までの各問いに答えなさい。

- (1) ストープの使用時間と灯油の残量の「強」の場合と「弱」の場合のグラフは、どちらも点Pでy軸と交わっています。点Pのy座標の値は、何を表していますか。下のアからエまでのの中から正しいものを1つ選びなさい。

ア ストープを使用し始めるときの灯油の残量

イ ストープを使用し始めるときの時間

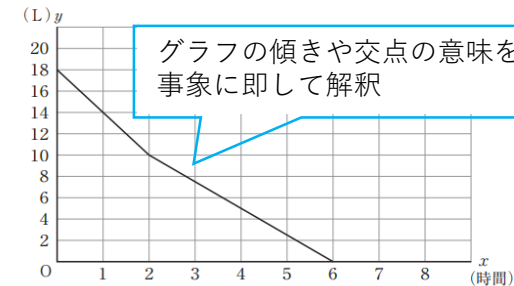
ウ 「強」の場合のストーブの1時間あたりの灯油使用量

エ 「弱」の場合のストーブの1時間あたりの灯油使用量

正答率：(3) 77.2%

- (3) ストープを6時間使用して、18Lの灯油をちょうど使い切るように、「強」と「弱」の設定の組み合わせを考え、使用計画を立てます。そこで、結衣さんは、20ページのストーブの使用時間と灯油の残量のグラフをもとに、次のようなグラフをかきました。

結衣さんがかいたグラフ



結衣さんがかいたグラフのようすは、ストーブを次のように設定して何時間使用するかを表しています。

はじめに設定を「」にして 時間使用し、その後、設定を「」にしてから 時間使用する。

上の 、 には「強」、「弱」のどちらか1つを、、 には当てはまる数をそれぞれ書きなさい。

〈正答〉
ア 強
イ 2
ウ 弱
エ 4

分析のポイント②
(課題)

一次関数を用いて、事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに引き続き課題がある。

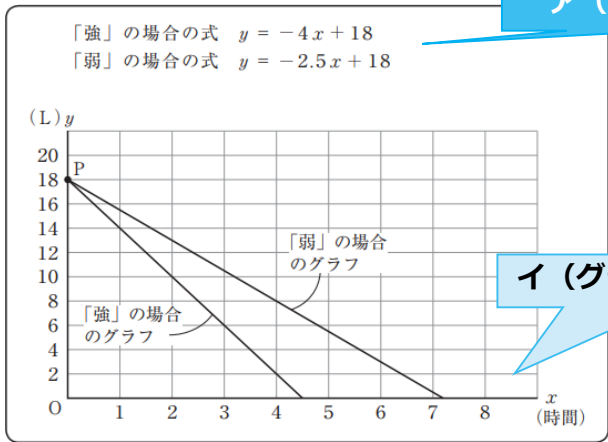
具体的な設問例

大問8(2)

ストーブの使用時間と灯油の残量から、ストーブを使用し始めてから18Lの灯油を使い切るまでの「強」の場合と「弱」の場合の使用時間の違いがおよそ何時間になるか求める方法をグラフや式を用いて説明する。

- ア 「強」の場合の式 $y = -4x + 18$ と「弱」の場合の式 $y = -2.5x + 18$
- イ 「強」の場合のグラフと「弱」の場合のグラフ

ストーブの使用時間と灯油の残量



ア (式を用いる場合)

イ (グラフを用いる場合)

解答の分析

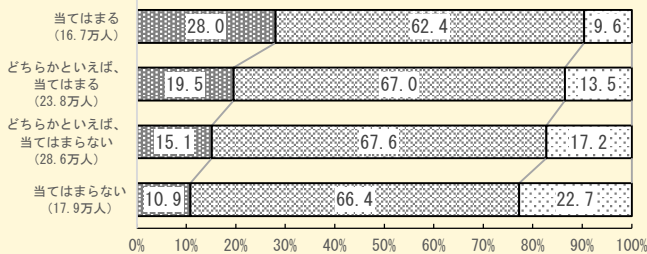
	ア (式を用いる場合)	イ (グラフを用いる場合)
<p>正答例</p> <p>(正答率)</p> <p>ア 9.4%</p> <p>イ 8.2%</p>	<p>「強」の場合の式と「弱」の場合の式について、それぞれの式に $y = 0$ を代入し、x の値の差を求める。</p> <p>(正答の条件)</p> <p>(a) 「強」の場合の式と「弱」の場合の式に $y = 0$ を代入すること。</p> <p>(b) 上記(a)に対応する x の値の差を求めること。</p> <p>上記(a)(b)について記述しているもの。</p>	<p>「強」の場合のグラフと「弱」の場合のグラフについて、y の値が0のときの x の値の差を求める。</p> <p>「強」の場合のグラフと「弱」の場合のグラフについて、y の値が0のときの2点間の距離を読み取る。</p> <p>(正答の条件)</p> <p>(c) 「強」の場合のグラフと「弱」の場合のグラフの y の値が0である点に着目すること。</p> <p>(d) 上記(c)に対応する x の値の差を求めること。</p> <p>(e) 上記(c)に対応する2点間の距離を読み取ること。</p> <p>上記(c)(d)又は(c)(e)について記述しているもの。</p>
<p>誤答例</p>	<p>2つの式に0を代入して、x の値を求める。</p> <p>2つの式から x の値の差を求める。</p> <p>2つの式を使って考える。</p>	<p>2つのグラフの y の値が0のときを求める。</p> <p>2つのグラフの x の値の差を求める。</p>

○誤答例の解説 思考の過程を的確に表現したり、考えたことを数学的な表現を用いて説明したりすることに課題があると考えられる。

クロス集計

生徒質問調査 × 本設問の正答率

生徒質問調査〔56〕「数学の問題が解けたとき、別の解き方を考えようとしている」の各選択肢を選んだ生徒の本設問における解答状況 (%)



0.173

この質問に否定的に答えたグループの方が、大問8(2)の正答率が低く、無解答率も高い。

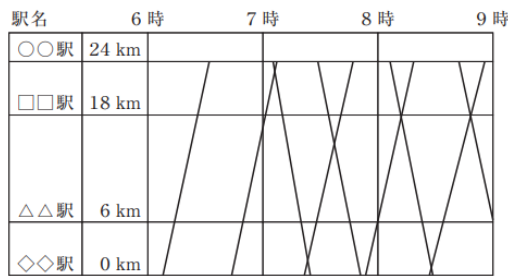
関連する過去の問題

平成30年度 B 3 (3)

A駅からの道のりが6kmの地点において、列車アが通ってから列車工が通るまでの時間をグラフから求める方法について説明する。

3 太一さんは、自分の地域を走る列車の写真を撮影し、紹介しようと考えています。そこで、ダイヤグラムを参考にして、撮影計画を立てることにしました。

ダイヤグラムとは、下のように、横軸を時刻、縦軸をある駅からの道のりとし、駅と駅間の列車の運行のようすを直線で表したものです。



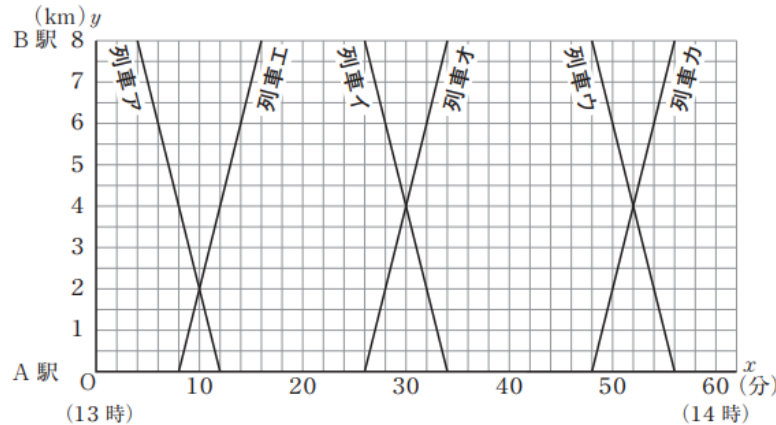
(2) 太一さんは、A駅からB駅間の列車を13時台に撮影する予定です。そこで、列車の運行のようすについて調べました。

調べたこと

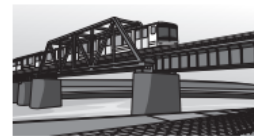
- A駅からB駅までの道のりは8 kmである。
- 13時台の列車の発着時刻は、次のようになっている。

	B駅発	A駅着		A駅発	B駅着
列車ア	13:04	13:12	列車工	13:08	13:16
列車イ	13:26	13:34	列車才	13:26	13:34
列車ウ	13:48	13:56	列車力	13:48	13:56

太一さんが作ったグラフ



(3) 太一さんは、A駅からの道のりが6 kmの地点にある鉄橋を通る列車アと列車工の写真を撮りたいと考えています。



このとき、A駅からの道のりが6 kmの地点において、列車アが通ってから列車工が通るまでにおよそ何分かかるかは、前ページの太一さんが作ったグラフから求めることができます。その方法を説明しなさい。ただし、実際に時間を求める必要はありません。

解答の分析

正答例

正答率
13.9%

列車アと列車工の2つのグラフについて、 y の値が6のときの x の値の差を求める。

誤答例

- ・ 2つのグラフの6 kmのときを見る。
- ・ 列車アと列車工のグラフを見ればわかる。

○誤答例の解説

x の値の差を求めることなどを表現することが出来なかったと考えられる。
⇒事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題があると考えられる。

指導改善のポイント

- 表、式、グラフなどを用いて問題解決する場面を設定し、それらの用い方について数学的に説明できるように指導することが大切である。
- 解決の方法として表現が不十分な説明を取り上げて、問題解決の見通しを共有した場面などを振り返りながら、十分な説明ができるようにすることが大切である。

「令和6年度【中学校数学】報告書」大問8(2)コラム
https://www.nier.go.jp/24chousakekkahouukoku/report/data/24mmath_idea_08.pdf#page=8



分析のポイント③
(課題)

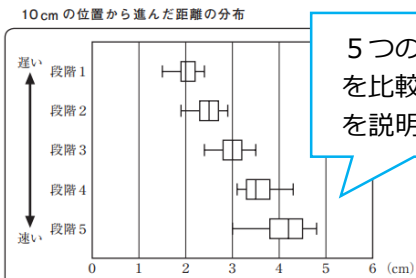
複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することに、引き続き課題がある。

具体的な設問例
大問7(2)

車型ロボットの進んだ距離について、「速さが段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、進んだ距離が長くなる傾向にある」と主張することができる理由を、進んだ距離の分布の5つの箱ひげ図を比較して説明する。

7 海斗さんと咲希さんは、安全性を高めるためにセンサーで障害物を感知して止まる自動車があることを知り、興味をもちました。
そこで、車型ロボット用のプログラムによって走らせることのできる車型ロボットを使って実験をすることにしました。

前ページの10cmの位置から進んだ距離の分布から、「速さが段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、10cmの位置から進んだ距離が長くなる傾向にある」と主張することができます。そのように主張することができる理由を、10cmの位置から進んだ距離の分布の5つの箱ひげ図を比較して説明します。下の説明を完成しなさい。



5つの箱ひげ図を比較して傾向を説明

説明

したがって、速さが段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、10cmの位置から進んだ距離が長くなる傾向にある。

解答の分析

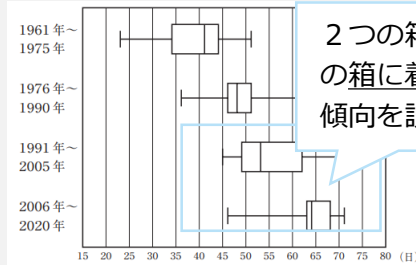
正答例	速さが段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、箱ひげ図の箱の位置が右側にずれていっている。 (正答の条件)
正答率 (26.4%)	次の(a)又は(b)について記述しているもの。 (a)箱ひげ図の箱がだんだんと右側にずれていっていること。 (b)第1四分位数と第3四分位数がだんだんと大きくなっていること。
誤答例	・段階1と段階5を比べると約2倍の差がある。 ・段階が速いと箱ひげ図は3cmよりも後ろにあるが、段階が遅いと前にかたまっている。

	最小値	第1四分位数	中央値	第3四分位数	最大値
段階1	1.5	1.9	2.0	2.2	2.4
段階2	1.9	2.3	2.5	2.7	2.9
段階3	2.4	2.8	3.0	3.2	3.5
段階4	3.1	3.3	3.5	3.8	4.3
段階5	3.0	3.8	4.2	4.5	4.8

関連する過去の問題
令和5年度 7(2)

2つの箱ひげ図の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する。

前ページの箱ひげ図を見ると、一花さんのように「2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にある」と主張することができます。そのように主張することができる理由を、1991年～2005年と2006年～2020年の2つの箱ひげ図の箱に着目して説明しなさい。



2つの箱ひげ図の箱に着目して傾向を説明

	最小値	第1四分位数	中央値	第3四分位数	最大値
1991年～2005年	23	34	41	44	51
2006年～2020年	36	46	48	51	61

解答の分析

正答例	1991年～2005年の箱ひげ図の箱よりも、2006年～2020年の箱ひげ図の箱の方が右側にある。したがって、2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にある。
正答率 (33.9%)	
誤答例	1991年～2005年の最小値よりも、2006年～2020年の最小値の方が大きいから。

指導改善のポイント

- 複数の集団のデータの分布に着目し、その傾向を比較して読み取る活動や判断の理由を説明し合う活動を通して、判断の理由を箱ひげ図の箱の位置や四分位数などを根拠として説明できるようにすることが大切である。

算数・数学における「データを基に数学的な表現を用いて説明する力」について

- 「データの活用」は、平成29年の学習指導要領改訂において、「社会生活などの様々な場面において、必要なデータを収集して分析し、その傾向を踏まえて課題を解決したり意思決定をしたりすることが求められており、そのような能力を育成するため」（平成28年中央教育審議会答申）、小学校及び中学校を通じた領域として設けられた。
- 今回の調査における中学校数学「データの活用」領域の問題では、箱ひげ図の問題が出題された。大問7（2）では、複数の箱ひげ図を比較して、データの分布の状況について判断した理由を説明することが求められたが、正答率は26.4%にとどまっている【p.26】。箱ひげ図の問題は、令和5年度調査においても出題されており（正答率は33.9%）、課題が継続していることが明らかになった。
- また、今回の小学校算数「データの活用」領域の調査結果に目を向けてみると、折れ線グラフが表すデータを言葉と数を使って説明することが求められた大問5（3）では、正答率は44.2%にとどまっている【p.21】。小学校でも同様に、令和5年度調査においても同種の問題の正答率が56.4%となっており、課題が継続している。
- 中学校の段階でデータを基に「判断した理由」を説明できるようにするためには、小学校段階でグラフが表すデータを言葉と数を使って表現する力を着実に身に付けさせたい。特に、目的に応じて分類整理された複数のグラフを比べ、見いだしたことを、他者に分かりやすく表現できるようにすることが重要である。つまり、データの分布に着目して考察し判断したことについて、その理由を根拠を示しながら説明できるようにすることが大切である。
- 各小・中学校においては、これまでの調査結果を振り返るとともに、課題解決に向けて授業改善に取り組むことが期待される。例えば、目的に応じて、ICT等を利用してデータを整理し、代表値等を求めたり、適切なグラフ等で表したりして、その結果をもとにデータの分布の特徴や傾向を読み取って判断し、表現する活動を取り入れることが効果的である。また、判断の根拠を明らかにして説明し合う活動を取り入れ、思考の過程や根拠などを数学的に表現し合ったり、表現されたものを解釈し合ったりすることも考えられる。

(1) 学習指導要領の趣旨を踏まえた教育活動の取組状況 ① 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

ポイント

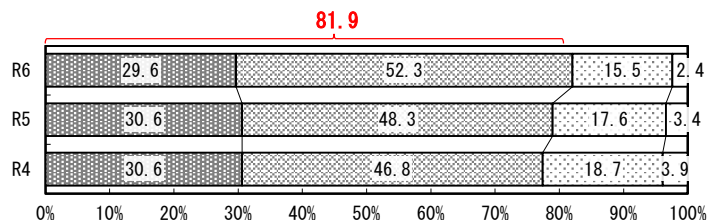
- 【pp.28-29】 主体的・対話的で深い学びに取り組んだと考える児童生徒ほど、各教科の正答率が高く、自分で学び方を考え工夫している。
- 【p.30】 児童生徒の主体的・対話的で深い学びに関する回答と挑戦心・自己有用感・幸福感等に関する回答との間には相関が見られる。
- 【p.31】 授業の中で主体的・対話的で深い学びに取り組んだ児童生徒は、家庭の社会経済的背景（SES）が低い状況にあっても、各教科の正答率が高い傾向が見られる。

課題の解決に向けて自分から取り組んだ

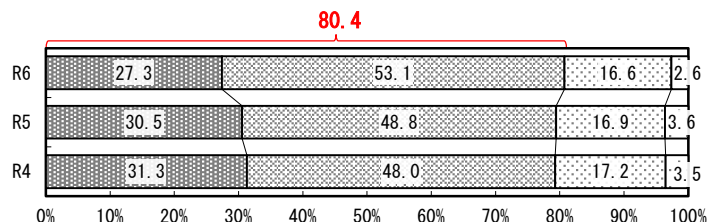
児童〔30〕 5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない □ 当てはまらない

小学校



中学校

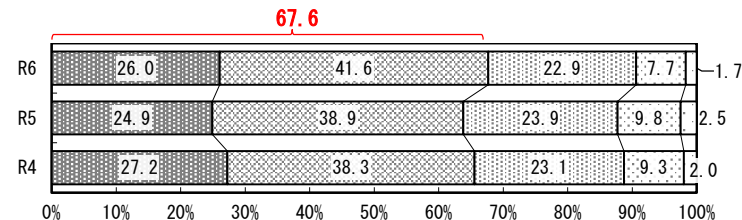


授業で工夫して発表していた

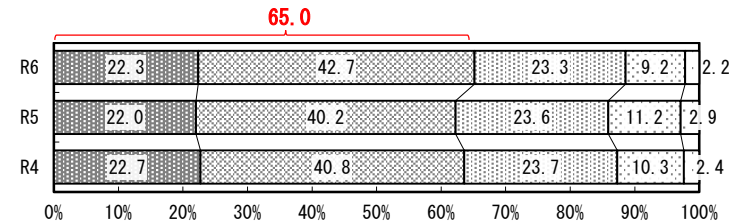
児童〔29〕 5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。

■ 発表していた ■ どちらかといえば、発表していた ■ どちらかといえば、発表していなかった ■ 発表していなかった □ 考えを発表する機会は無かった

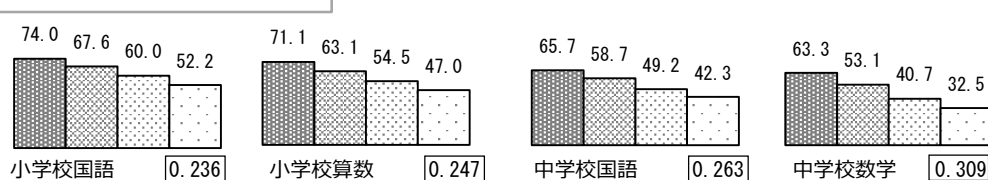
小学校



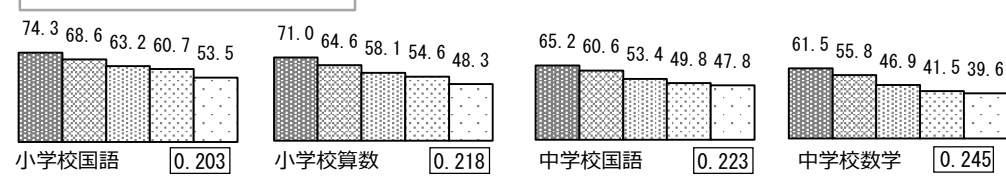
中学校



選択肢ごとの教科の平均正答率



選択肢ごとの教科の平均正答率



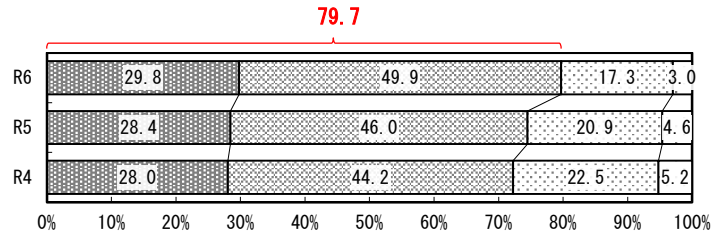
学んだことを生かしながら考えをまとめていた

児童〔31〕
生徒〔31〕

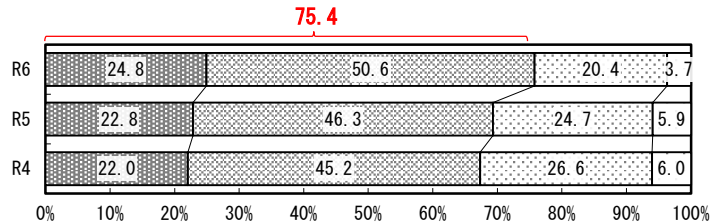
5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない □ 当てはまらない

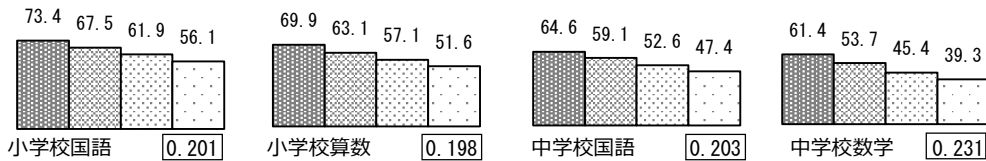
小学校



中学校



選択肢ごとの教科の平均正答率



クロス集計

(児童生徒)

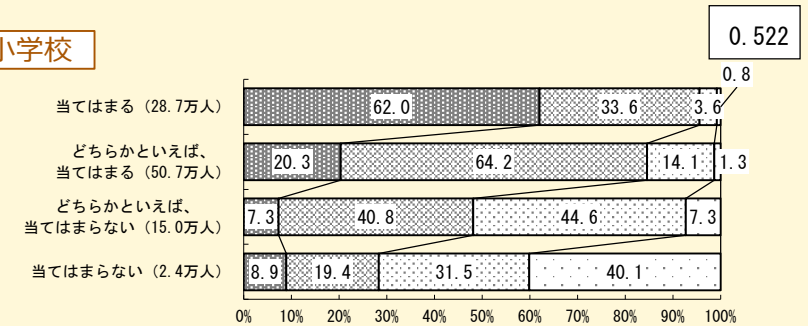
授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。(30)

【課題の解決に向けて自分から取り組んだ】 × 【自分で学び方を考え、工夫】

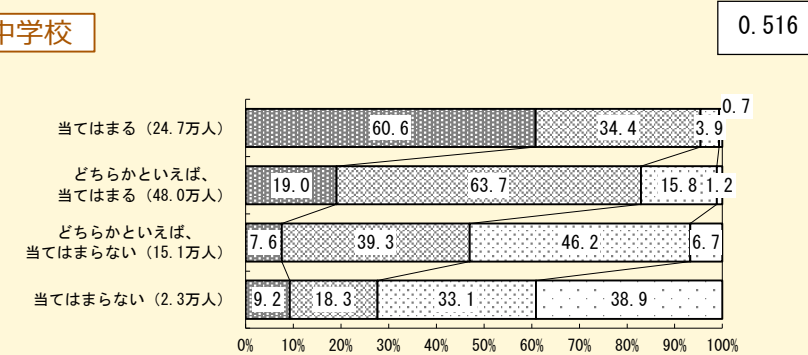
分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。〔20〕(新規)

■ できている ■ どちらかといえば、できている
■ どちらかといえば、できていない □ できていない

小学校



中学校



(※) 「児童生徒〔30〕課題の解決に向けて自分から取り組んだか」以外の「主体的・対話的で深い学び」に関する回答でも同様の傾向。

「主体的・対話的で深い学び」と「児童生徒の挑戦心・自己有用感・幸福感等」との関係

- 児童生徒の主体的・対話的で深い学びに関する回答と挑戦心・自己有用感・幸福感等に関する回答との間には相関が見られる。主体的・対話的で深い学びが、児童生徒の挑戦心・自己有用感・幸福感等に影響を与えている可能性がある。

クロス集計 (児童生徒)

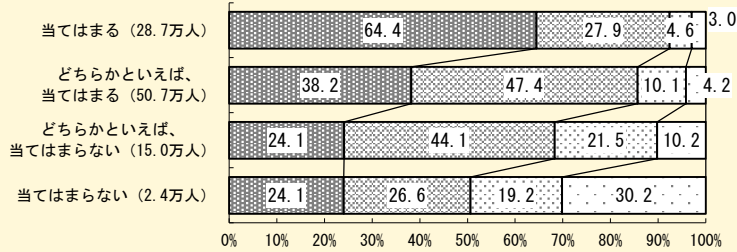
【課題の解決に向けて自分から取り組んだ】× 【自分にはよいところがあると思う】

自分には、よいところがあると思いますか。〔9〕

■ 当てはまる □ どちらかといえば、当てはまる
 ■ どちらかといえば、当てはまらない □ 当てはまらない

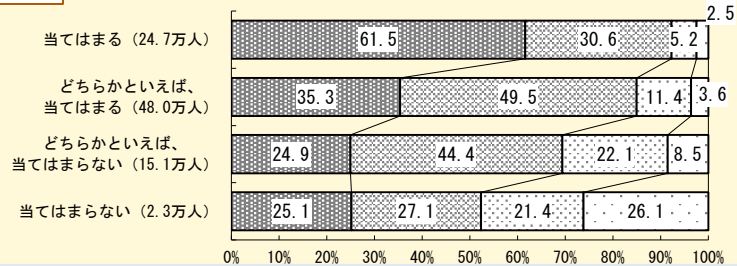
小学校

0.313



中学校

0.297



授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。〔30〕

クロス集計 (児童生徒)

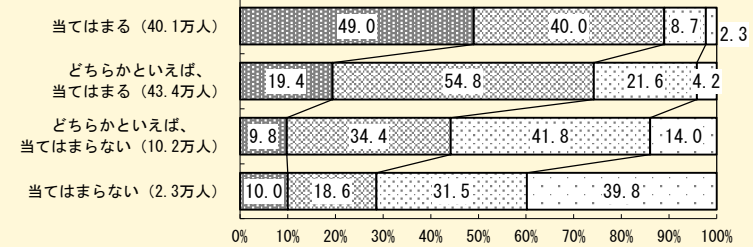
【話合いで考えを深めたり新たな考えに気付いたりした】× 【自分と違う意見について考えるのは楽しい】

自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。〔17〕

■ 当てはまる □ どちらかといえば、当てはまる
 ■ どちらかといえば、当てはまらない □ 当てはまらない

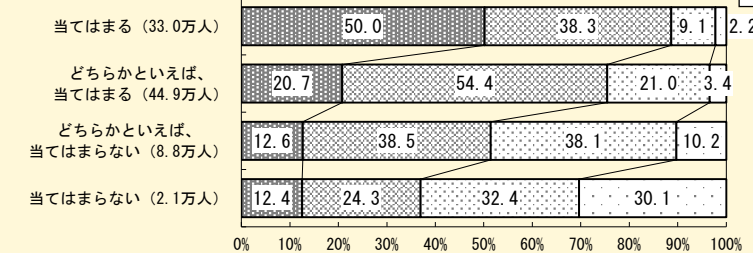
小学校

0.415



中学校

0.364



学級の友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。〔33〕

(参考) 令和5年度全国学力・学習状況調査の英語の結果を活用した専門的な分析については、令和5年度文部科学省委託研究(受託者:三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社)においても詳細に分析を行っている。

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku-chousa/1416304_00010.html



「社会経済的背景 (SES)」 × 「主体的・対話的で深い学び」 × 「正答率」の関係

三重クロス集計

家庭の社会経済的背景(SES: Socio-Economic Status)*が低いグループほど、各教科の正答率が低い傾向が見られる中でも、「主体的・対話的で深い学び」(※)に取り組んだ児童生徒は、SESが低い状況にあっても、各教科の正答率が高い傾向が見られる。

(※)「児童生徒〔30〕課題の解決に向けて自分から取り組んだか」以外の「主体的・対話的で深い学び」に関する回答でも同様の傾向。

【家にある本の冊数】 × 【課題の解決に向けて自分から取り組んだ】 × 【各教科の正答率】

[授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。 児童生徒〔30〕]



- ① 当てはまる
- ② どちらかといえば、当てはまる
- ③ どちらかといえば、当てはまらない
- ④ 当てはまらない

[家にある本の冊数
児童生徒〔23〕]



- 0~25冊
- 26~100冊
- 101冊以上

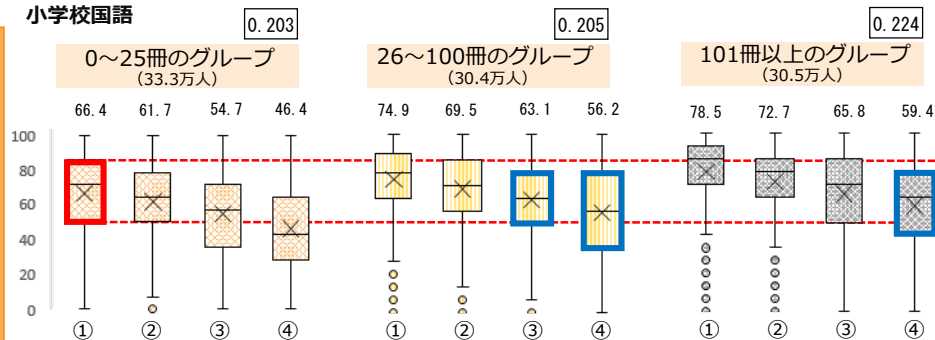
*SESの代替指標として利用

分析

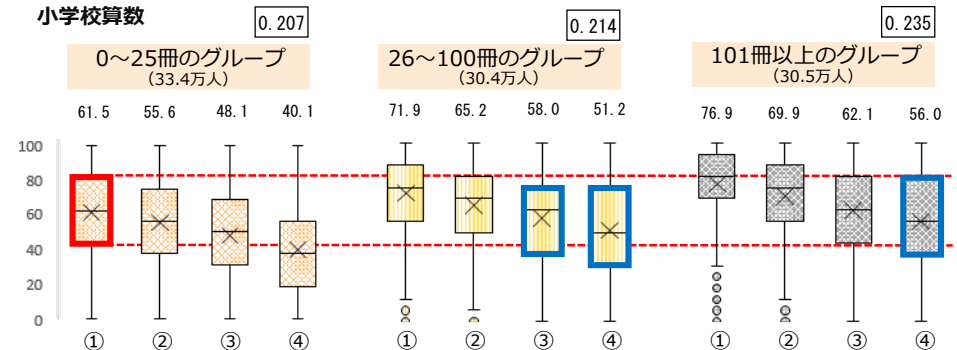
例えば、中学校数学では、低SESグループ（本が0~25冊）で主体的・対話的で深い学びの質問に「①」と回答した生徒の箱ひげ図の箱は、中SESグループ（本が26~100冊）で「③」「④」と回答した生徒及び高SESグループ（本が101冊以上）で「③」「④」と回答した生徒の箱より上の位置（正答率が高い位置）にある。

「各教科の正答率」

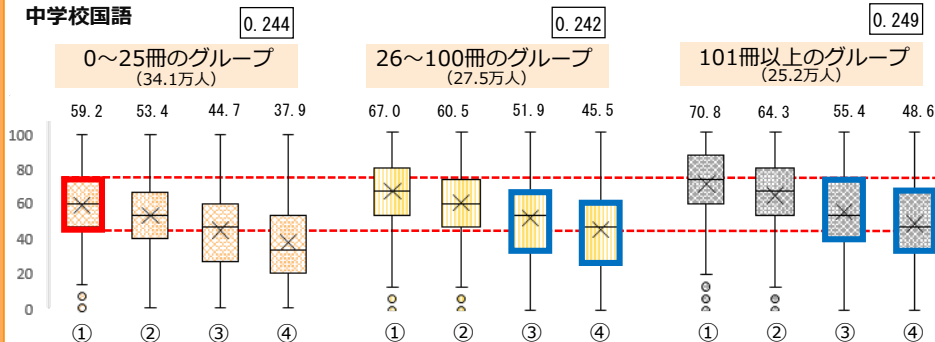
小学校国語



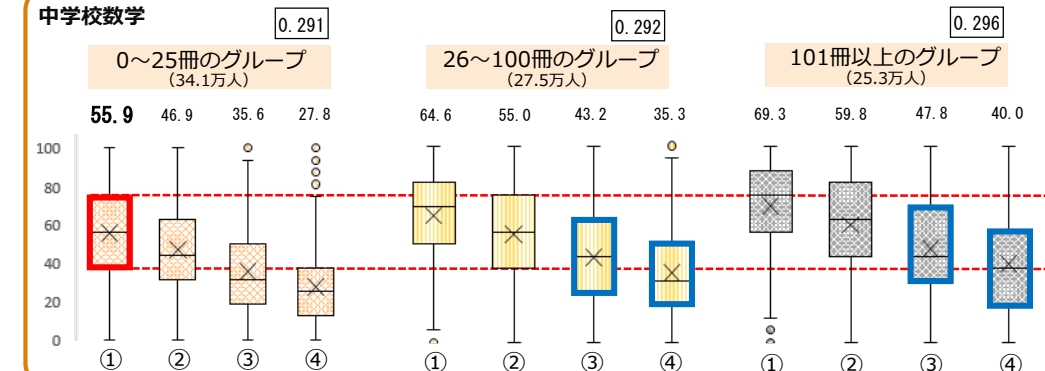
小学校算数



中学校国語



中学校数学



(注) 中・高SESグループの箱ひげ図のうち、低SESグループで「①」と回答した児童生徒の箱ひげ図の箱（赤枠）の第1四分位又は第3四分位を下回っているものの箱に青枠を付している。

(参考) SESと正答率との関係等については、令和4年度文部科学省委託研究（受託者：福岡教育大学、お茶の水女子大学）においても詳細に分析を行っている。

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku-chousa/1416304_00008.html



② 個別最適な学び・協働的な学び

ポイント

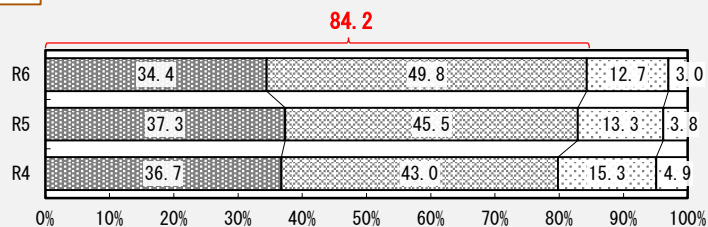
- 【p.32】 授業が自分にあった教え方、教材、学習時間になっていたと考える児童生徒の割合は8割以上。友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んだと考える児童生徒の割合は9割以上。
- 【p.33】 個別最適な学び・協働的な学びの両方に取り組んだと考えている児童生徒は、正答率が高い傾向が見られるとともに、「授業の内容はよく分かる」「学校に行くのは楽しい」「自分にはよいところがあると思う」と回答している傾向が見られる。

個別最適な学び

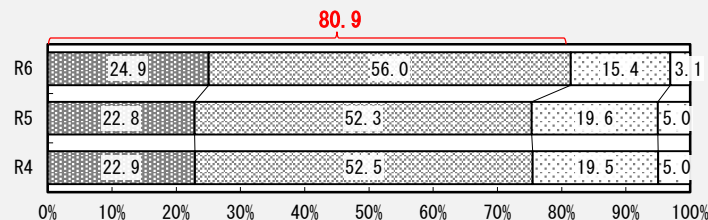
児童〔32〕 5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか。

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる
 □ どちらかといえば、当てはまらない □ 当てはまらない

小学校



中学校

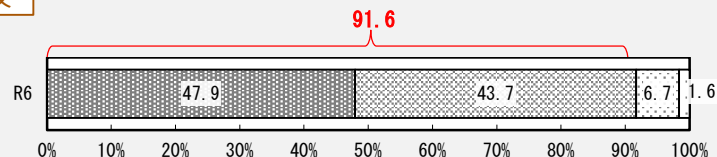


協働的な学び

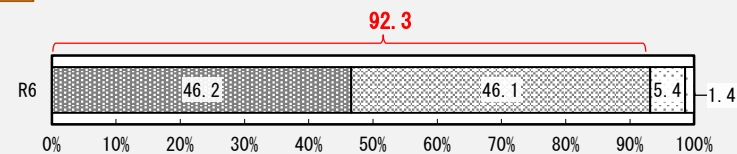
児童〔37〕 授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。（新規）

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる
 □ どちらかといえば、当てはまらない □ 当てはまらない

小学校



中学校



「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実①

三重クロス集計

- 令和3年1月26日中央教育審議会答申において、これからの社会を生きる子供たちに必要な資質・能力を育成するため、ICTも最大限活用しながら、多様な子供たち一人一人の特性や学習の進度等に応じた「個別最適な学び」と、子供たち同士が互いのよい点や可能性を生かしながら一緒に学ぶ「協働的な学び」の一体的な充実が求められるとされている。
- このため、個別最適な学びと協働的な学びの実施状況について分析したところ、個別最適な学び・協働的な学びの両方に取り組んだグループ（個○協○）の正答率が、他のグループより高かった。

【個別最適な学び】×【協働的な学び】×【各教科の正答率】

[授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか。 児童生徒〔32〕]

- 当てはまる（又は）どちらかといえば、当てはまる
- × どちらかといえば、当てはまらない（又は）当てはまらない

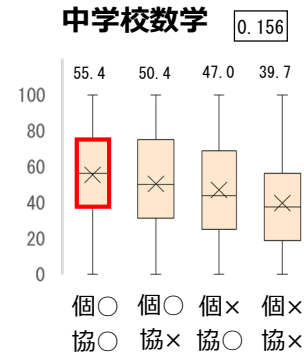
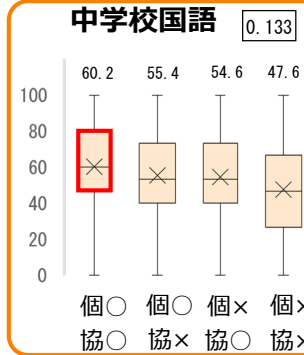
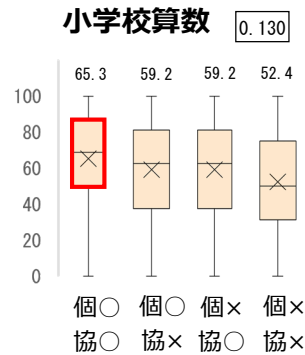
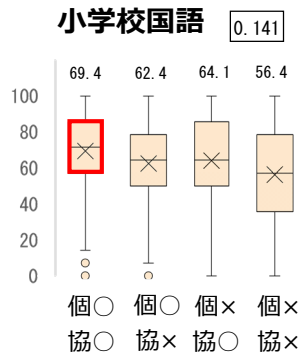


[授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。 児童生徒〔37〕（新規）]

- 当てはまる（又は）どちらかといえば、当てはまる
- × どちらかといえば、当てはまらない（又は）当てはまらない

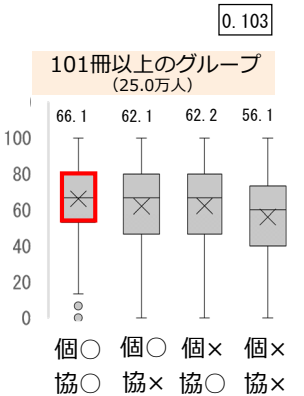
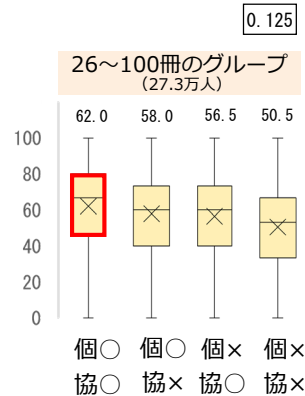
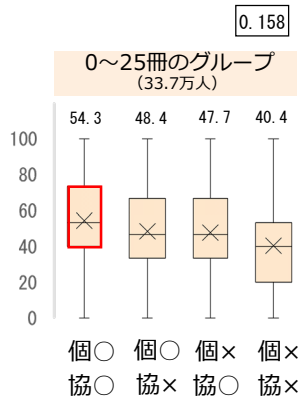
グループ	人数（万人）	
	小学校	中学校
個○協○	77.7	70.2
個○協×	3.8	2.5
個×協○	10.9	13.0
個×協×	4.3	3.6

「各教科の正答率」



分析

いずれに教科においても、個別最適な学び・協働的な学びの両方に取り組んだグループ（個○協○（赤枠））の正答率を表す箱ひげ図の箱が最も上の位置（正答率が高い位置）にあり、個別最適な学び・協働的な学びのいずれにも取り組んでいないグループ（個×協×）の箱が最も下の位置にある。

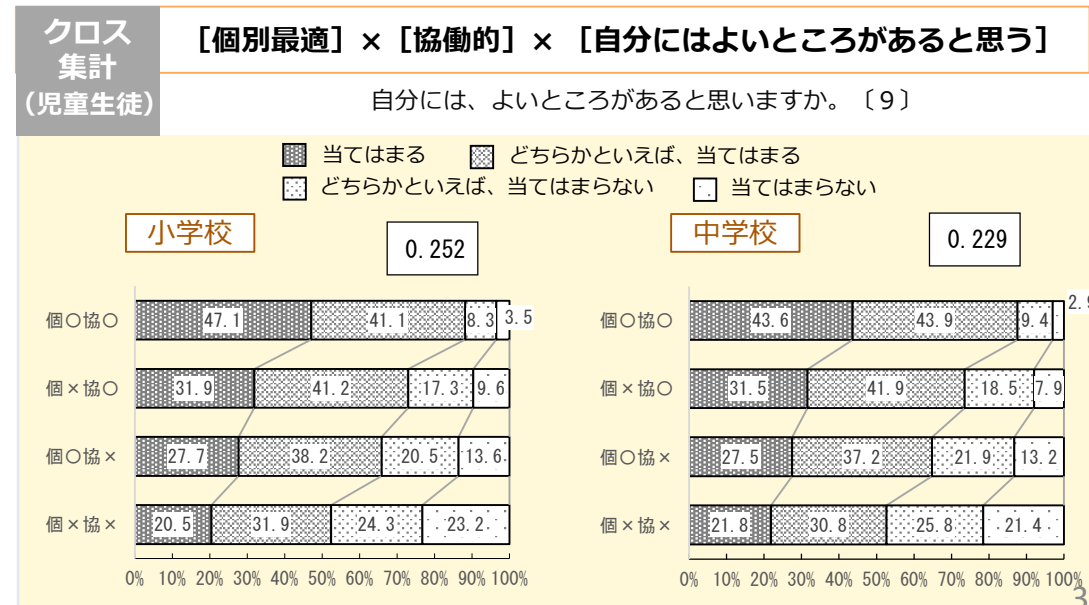
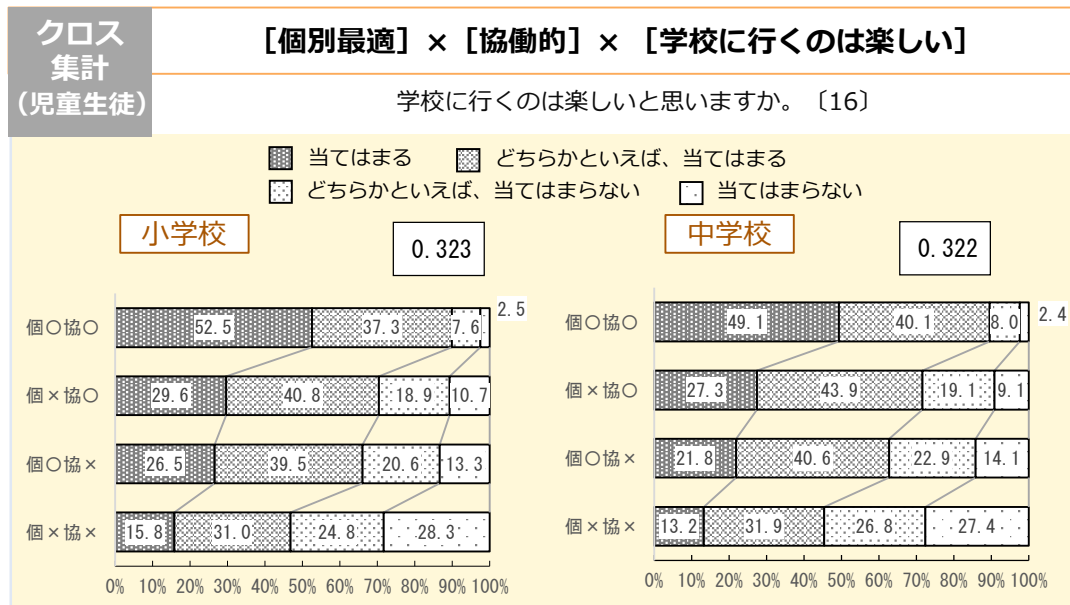
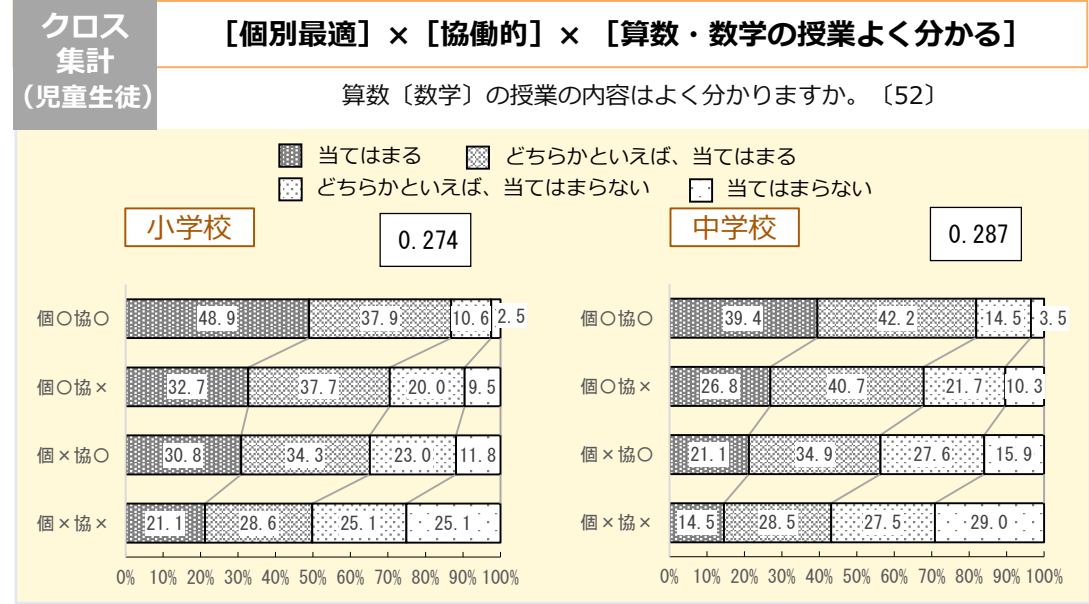
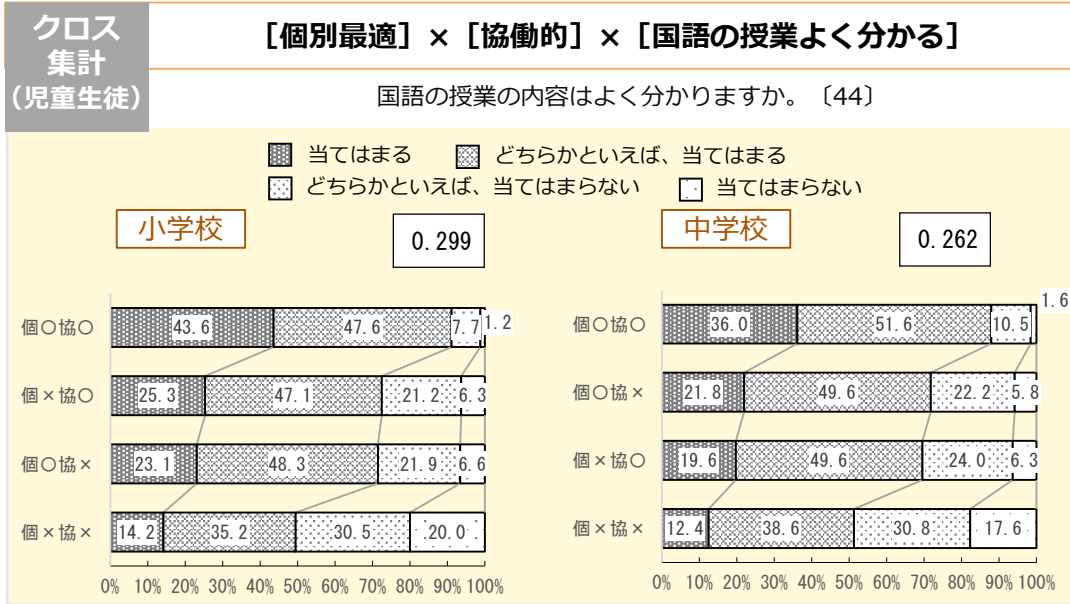


分析

個別最適な学び・協働的な学びの両方に取り組んだグループ（個○協○）の正答率が他のグループより高いという傾向は、SES別に見ても確認できる。

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実②

○ 児童生徒質問調査について、個別最適な学び・協働的な学びの両方に取り組んだグループ（個○協○）が「授業の内容はよく分かる」「学校に行くのは楽しい」「自分にはよいところがあると思う」と回答した割合が最も高かった。



③カリキュラム・マネジメント

ポイント

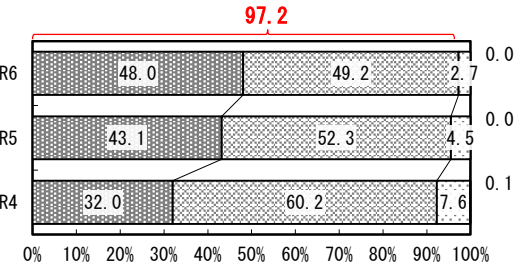
- 【p.35】小中とも約95%の学校がカリキュラム・マネジメントに取り組んでいる。

小学校〔14〕
中学校〔14〕

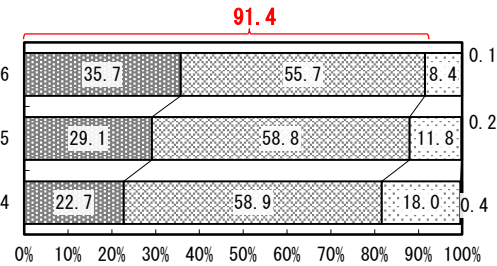
指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか。

■ よくしている ■ どちらかといえば、している ■ あまりしていない □ 全くしていない

小学校



中学校

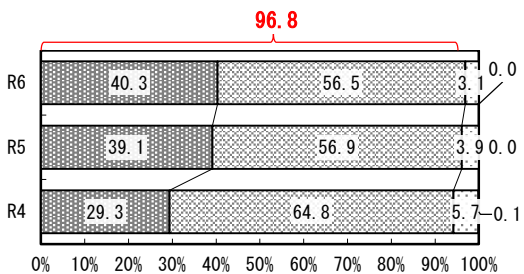


小学校〔13〕
中学校〔13〕

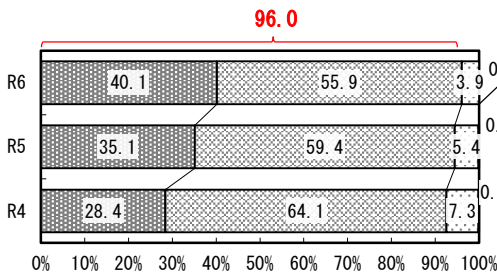
児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか。

■ よくしている ■ どちらかといえば、している ■ あまりしていない □ 全くしていない

小学校



中学校



「カリキュラム・マネジメント」と「学校運営」との関係

- 学校づくりに組織的・柔軟に取り組んでいる学校ほど、カリキュラム・マネジメントの取組を行っている傾向が見られる。

クロス集計 (学校)

【学校改善に組織的に取り組む】 × 【教育内容と資源を効果的に組み合わせる】

指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか。〔14〕

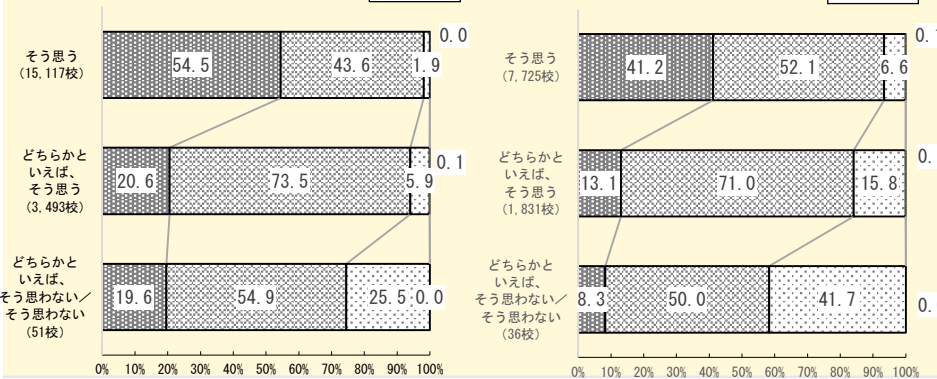
■ よくしている ■ どちらかといえば、している ■ あまりしていない □ 全くしていない

小学校

0.273

中学校

0.249



クロス集計 (学校)

【新しい取組に前向きな教職員が多い】 × 【教育課程のPDCAサイクルを確立している】

児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか。〔13〕

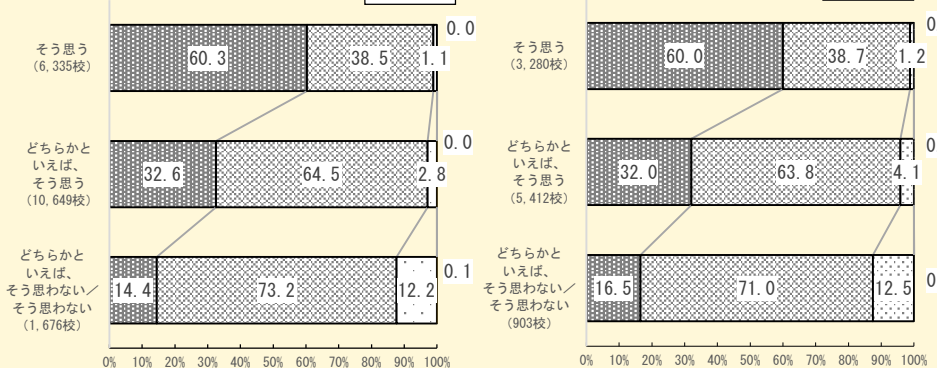
■ よくしている ■ どちらかといえば、している ■ あまりしていない □ 全くしていない

小学校

0.320

中学校

0.314



今までの取組をそのまま踏襲するのではなく、新しい取組を導入したり、提案をしたりして、くる教職員が多いと思いますか。〔22〕 (新規)

(2) ICTを活用した学習状況 ① ICTの活用状況等

ポイント

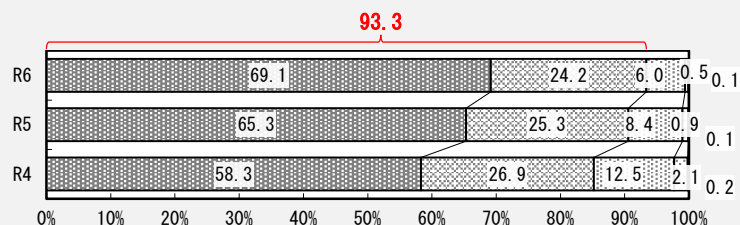
- 【p.36】 ICT機器を「ほぼ毎日」「週3回以上」活用する学校は、小学校93%（前年比3ポイント増）、中学校91%（前年比4ポイント増）。
- 【pp.37-38】 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を進め、課題の解決に取り組む学習活動を行っている学校ほど、そのような学習場面でのICT機器の活用頻度が高いと回答している。その両方に取り組んだ学校グループの児童生徒は、それ以外の学校グループに比べて、各教科の正答率が高い。
- 【p.39】 ICT機器が、不登校児童生徒、特別な支援を要する児童生徒、外国人児童生徒に対する学習活動等の支援や、児童生徒の心身の状況の把握等にも活用されている。

小学校〔56〕
中学校〔60〕

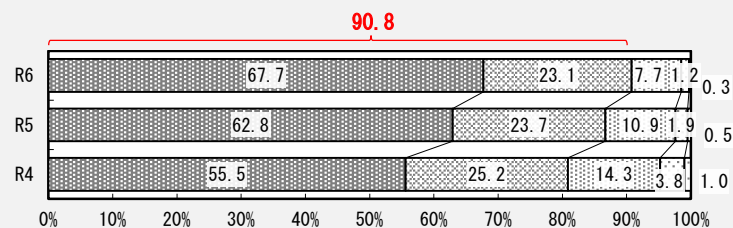
調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか。

ほぼ毎日
 週3回以上
 週1回以上
 月1回以上
 月1回未満

小学校



中学校



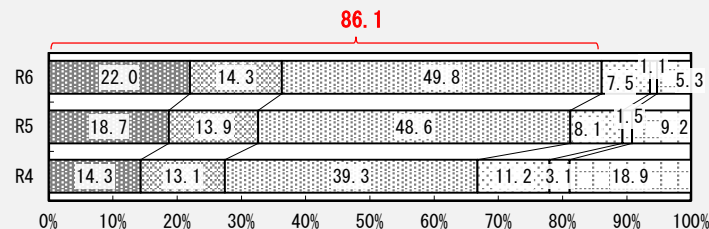
小学校〔64〕
中学校〔68〕

児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか。

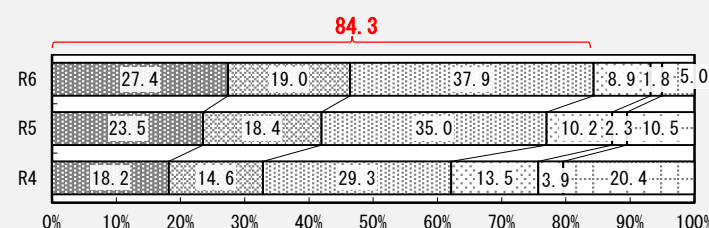
毎日持ち帰って、毎日利用させている
 毎日持ち帰って、時々利用させている
 時々持ち帰って、時々利用させている

持ち帰らせていない
 持ち帰ってはいけないこととしている
 臨時休業等の非常時のみ、持ち帰ることとしている

小学校



中学校



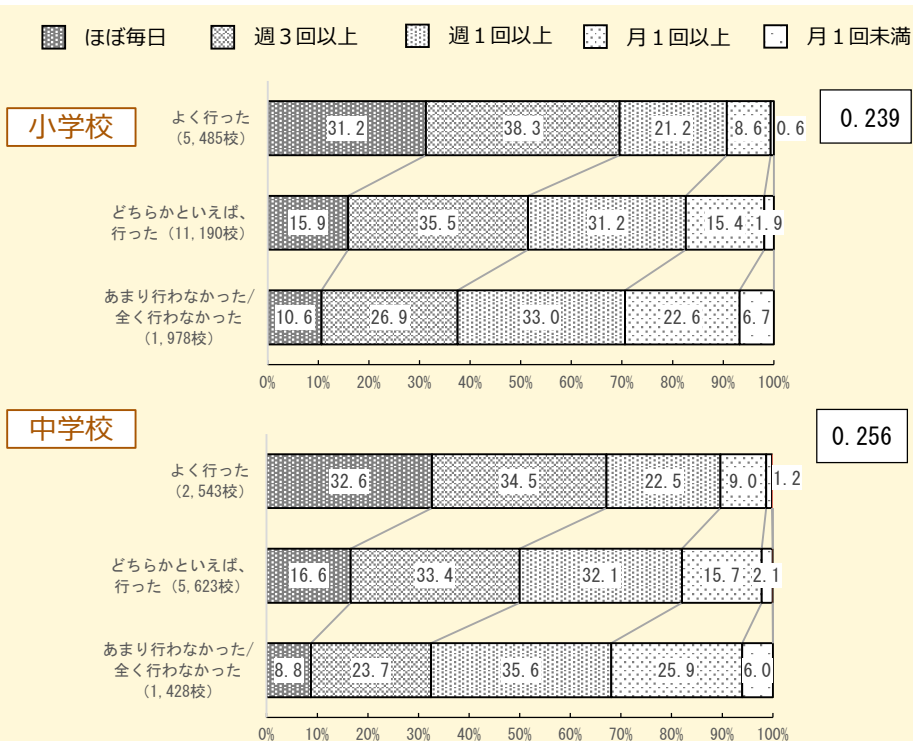
「授業でのICTの活用頻度」と「主体的・対話的で深い学び」との関係

- 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を進め、課題の解決に取り組む学習活動を行っている学校ほど、そのような学習場面でのICT機器の活用頻度が高いと回答している。
- 課題の解決に向けて自分から取り組んだと考える児童生徒ほど、正答率が高い傾向が見られる。

クロス集計 (学校)

【課題の解決に向けて話し合い、まとめ、表現する学習活動】 × 【考えをまとめ、発表・表現する場面でのICTの活用頻度】

調査対象学年の児童生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか。
〔小：58、中：62〕

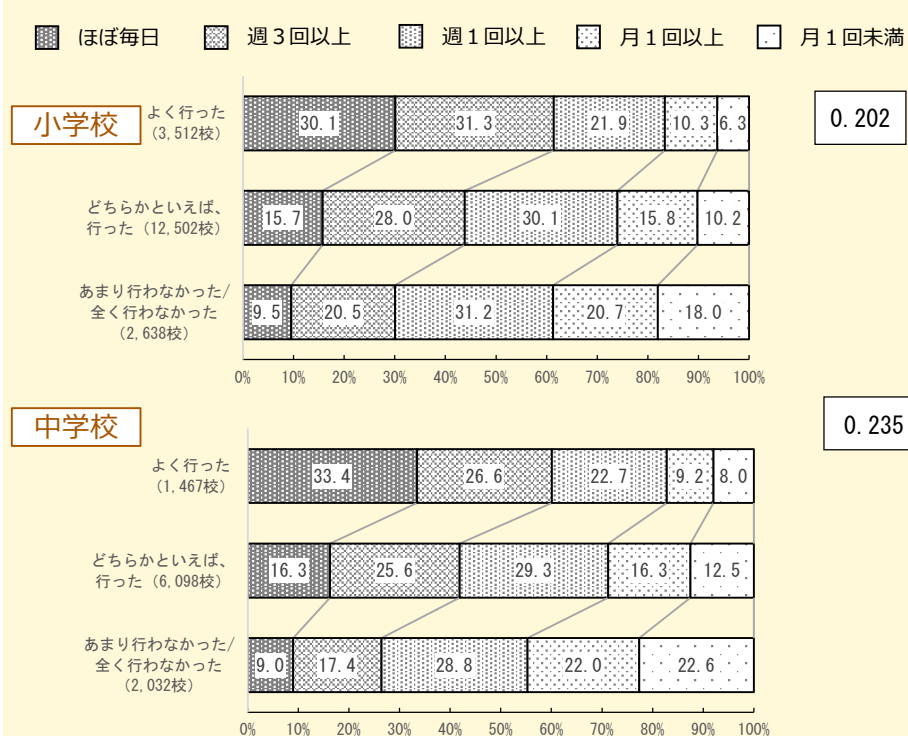


〔学校33〕
調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、授業において、児童生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れられましたか。

クロス集計 (学校)

【各教科等で身に付けたことを課題の解決に生かす学習活動】 × 【児童生徒がやりとりする場面でのICTの活用頻度】

調査対象学年の児童生徒同士がやりとりする場面では、児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか。
〔学校〔小：60、中：64〕〕



調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか。〔学校35〕

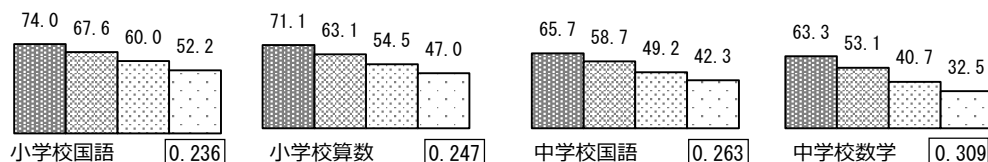
児童生徒質問【課題の解決に向けて自分から取り組んだ】と【正答率】との関係【p.28の再掲】

課題の解決に向けて自分から取り組んだ

児童〔30〕 5年生まで〔1、2年生のとき〕に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。
生徒〔30〕

クロス集計

選択肢ごとの教科の平均正答率



三重クロス集計

課題の解決に取り組む学習活動を行っている学校ほど、考えをまとめ、発表・表現する場面でICTを活用している傾向が見られる。(※) その両方に取り組んだ学校グループの児童生徒は、それ以外の学校グループに比べて、各教科の正答率が高い。

(※)「学校〔33〕 課題の解決に向けて話し合い、まとめ、表現する学習活動」以外の主体的・対話的で深い学びに関する学校質問についても同様の傾向。

【課題の解決に向けて話し合い、まとめ、表現する学習活動】×
【考えをまとめ、発表・表現する場面でのICT活用頻度】×【各教科の正答率】

[児童〔生徒〕自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか。 学校〔33〕]



- ① よく行った
- ② どちらかといえば、行った
- ③ あまり行わなかった
全く行わなかった

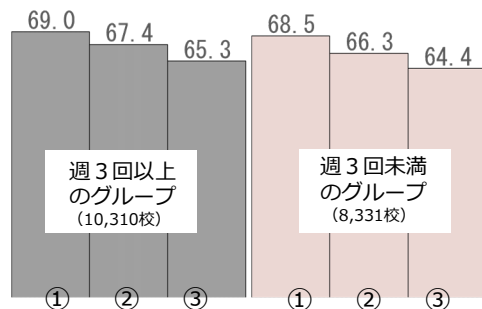


[考えをまとめ、発表・表現する
場面でのICT活用頻度
学校〔小：58、中：62〕]

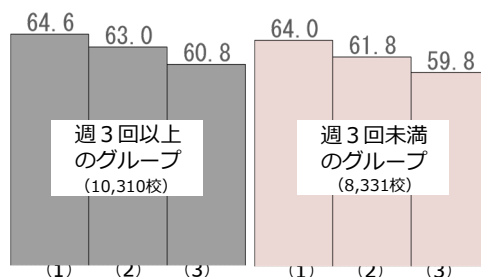


- 週3回以上
- 週3回未満

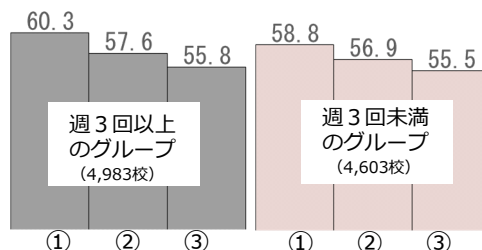
小学校国語



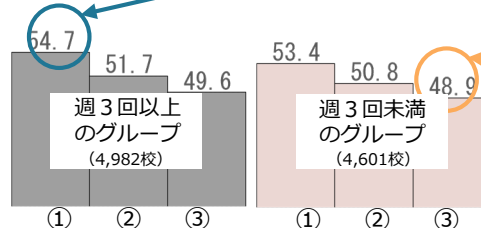
小学校算数



中学校国語



中学校数学



分析

例えば、中学校数学では、

発表場面でのICT活用頻度が週3回以上で、課題解決の学習活動の質問に「当てはまる」と回答した学校の生徒の平均正答率は**54.7%**。

発表場面でのICT活用頻度が週3回未満で、課題解決の学習活動の質問に「どちらかといえば、当てはまらない」又は「当てはまらない」と回答した学校の生徒の平均正答率は**48.9%**。

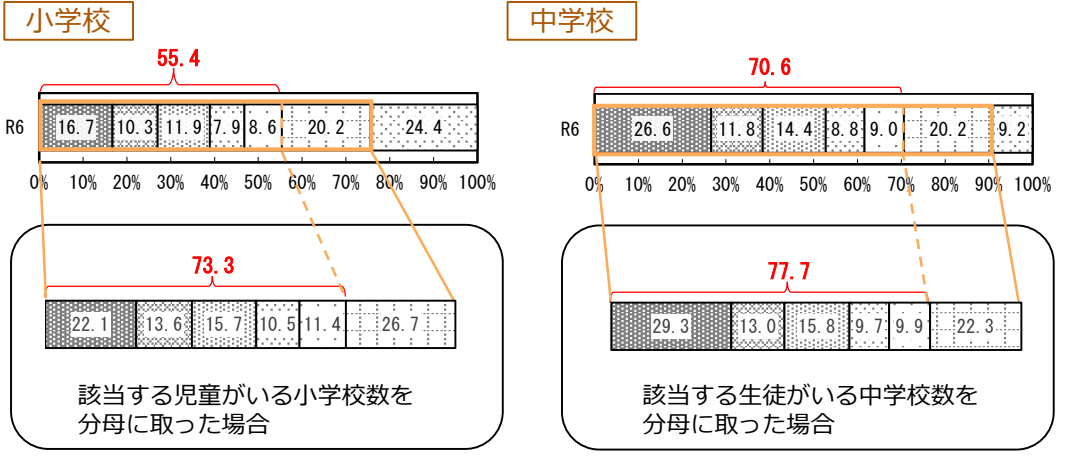
「各教科の正答率」

小学校〔65〕
中学校〔69〕

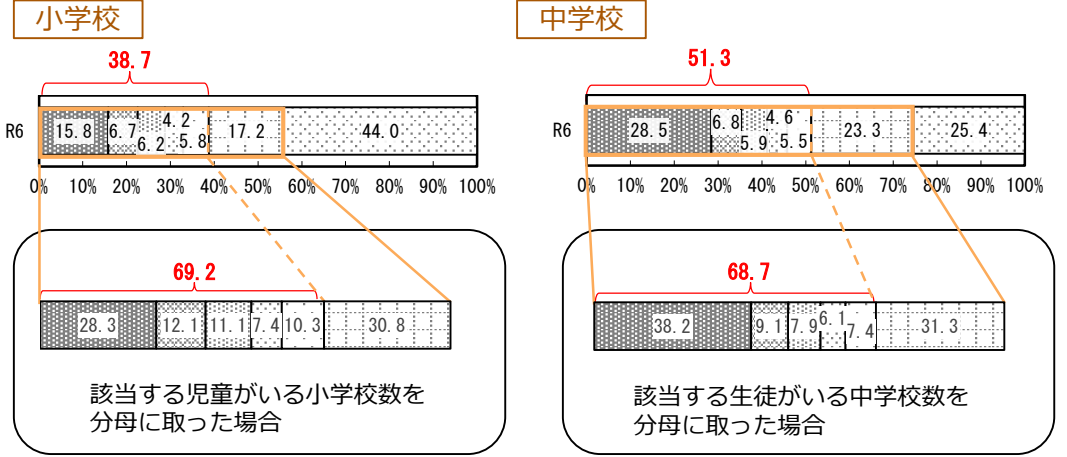
児童生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、以下のような用途でどの程度活用していますか。

■ ほぼ毎日 ■ 週3回以上 ■ 週1回以上 ■ 月1回以上 ■ 月1回未満 ■ 活用していない ■ 該当する児童生徒がない

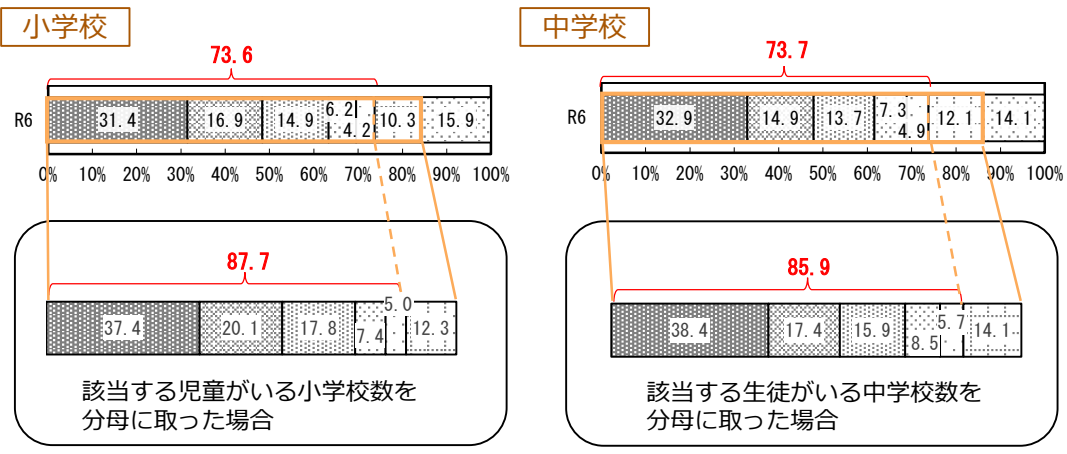
(1) 不登校児童生徒に対する学習活動等の支援（授業配信を含む）



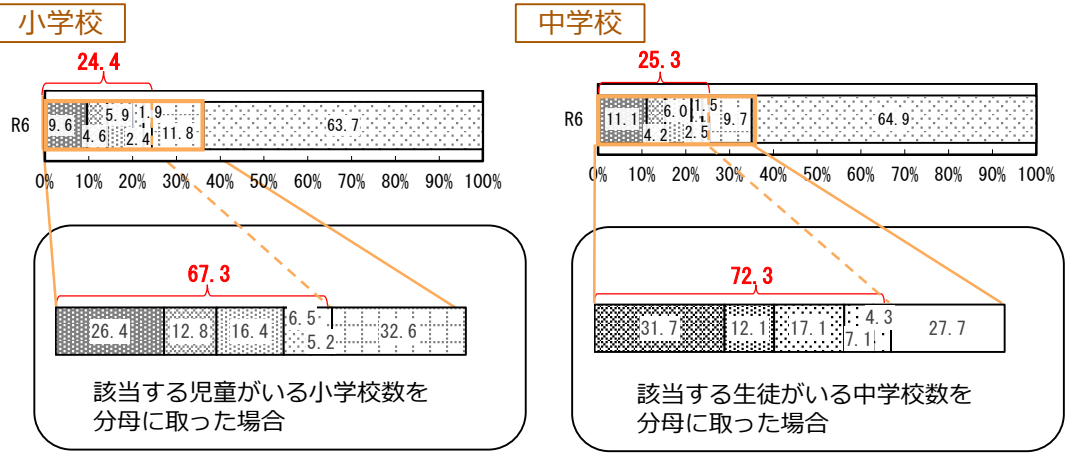
(2) 希望する不登校児童生徒に対する授業配信



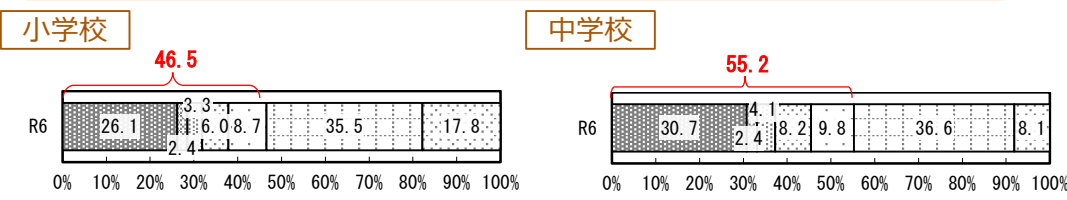
(3) 特別な支援を要する児童生徒に対する学習活動等の支援



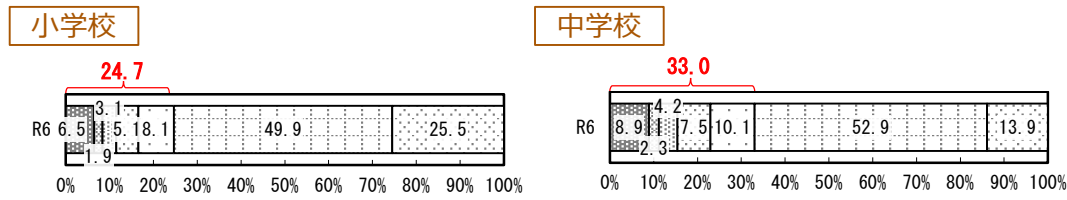
(4) 外国人児童生徒に対する学習活動等の支援



(5) 児童生徒の心身の状況の把握



(6) 児童生徒に対するオンラインを活用した相談・支援



② ICT機器活用の効力感

ポイント

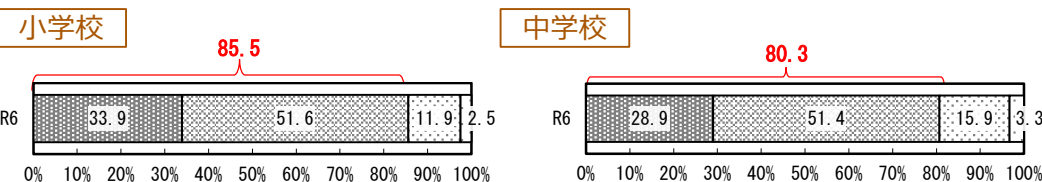
- 【p.40】 約9割の児童生徒が、ICT機器は「分からないことがあった時に、すぐ調べることができる」「画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる」「友達と考えを共有したり比べたりしやすくする」と考えている。
- 【p.41】 主体的・対話的で深い学びに取り組んだと考える児童生徒ほど、ICT機器活用の効力感が高い。
- 【p.42】 ICT機器活用の効力感に関して肯定的に回答した児童生徒ほど、挑戦心・自己有用感・幸福感等に関して肯定的に回答している。

児童〔28〕
生徒〔28〕

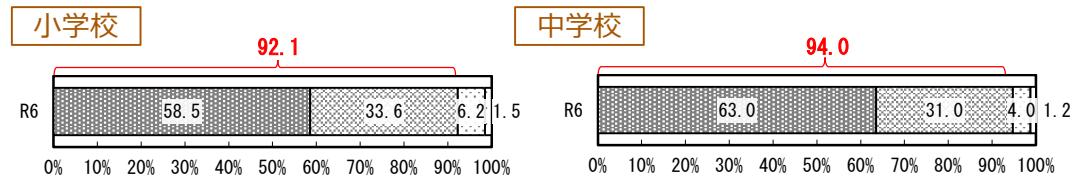
5年生まで〔1、2年生のとき〕の学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用することについて、以下のことはあなたにどれくらい当てはまりますか。（新規）

■ とてもそう思う ■ そう思う ■ あまりそう思わない □ そう思わない

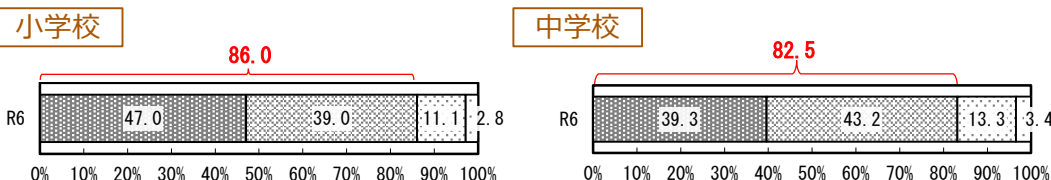
(1) 自分のペースで理解しながら学習を進めることができる



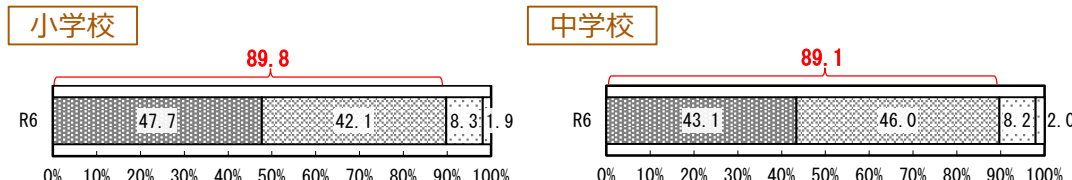
(2) 分からないことがあった時に、すぐ調べることができる



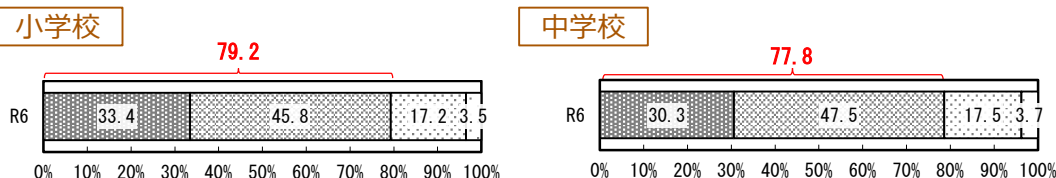
(3) 楽しみながら学習を進めることができる



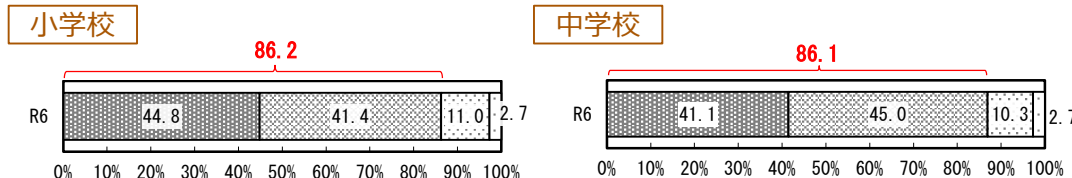
(4) 画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる



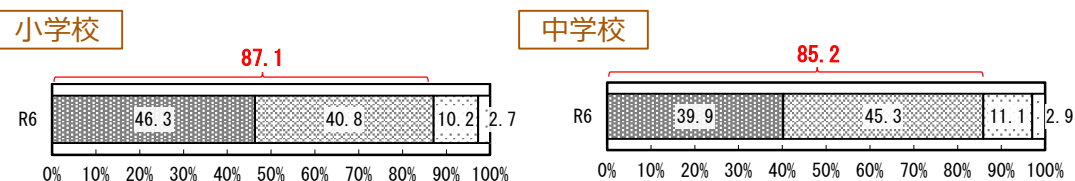
(5) 自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる



(6) 友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる

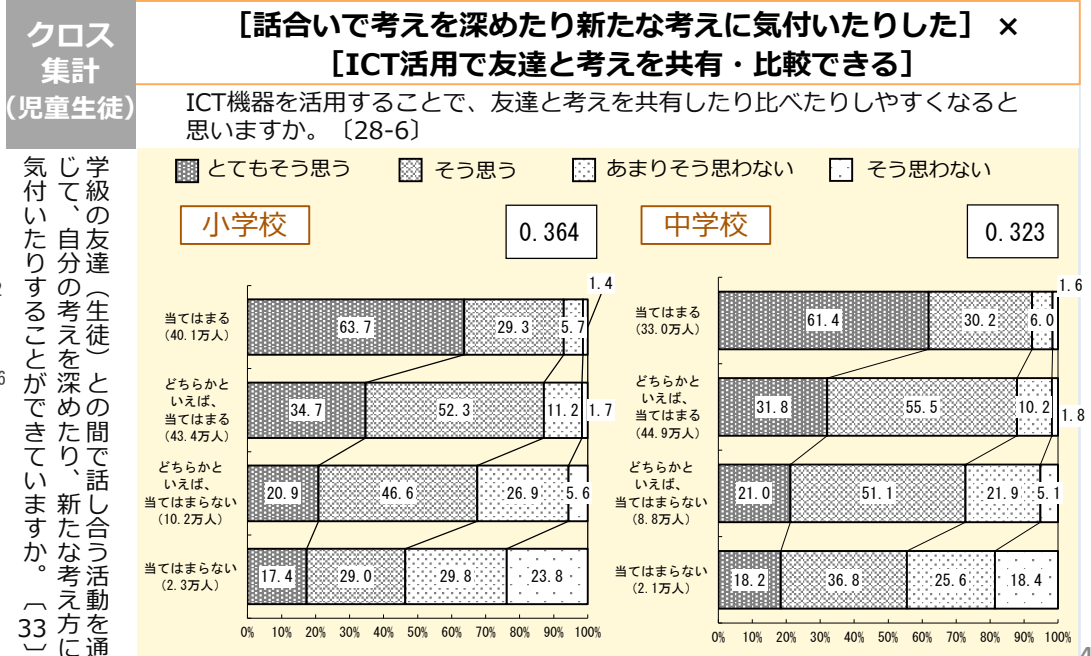
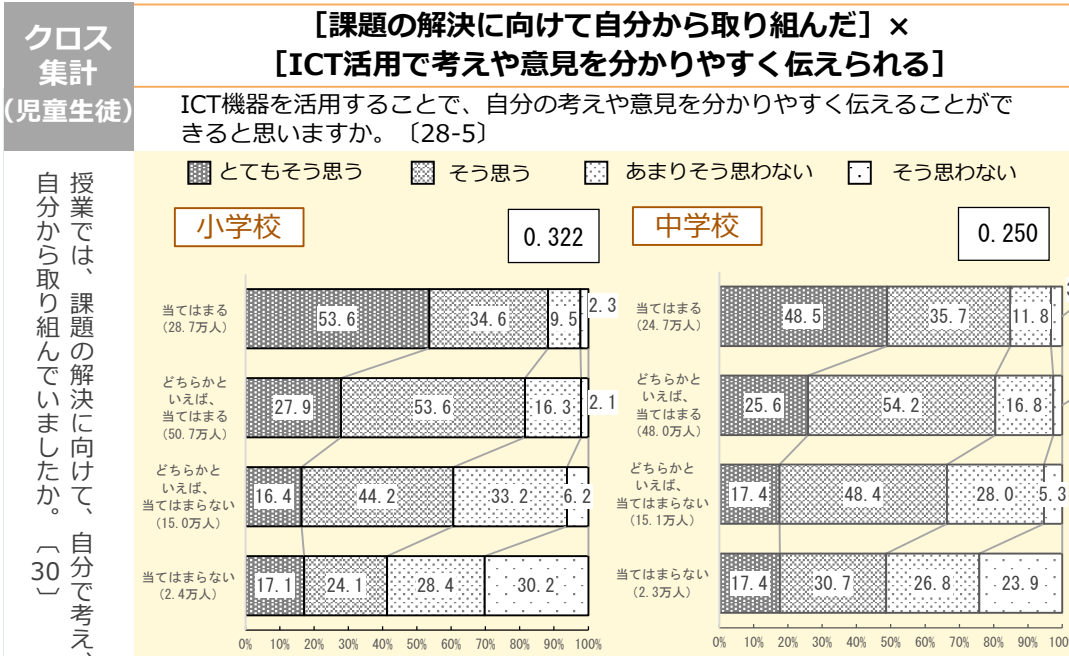
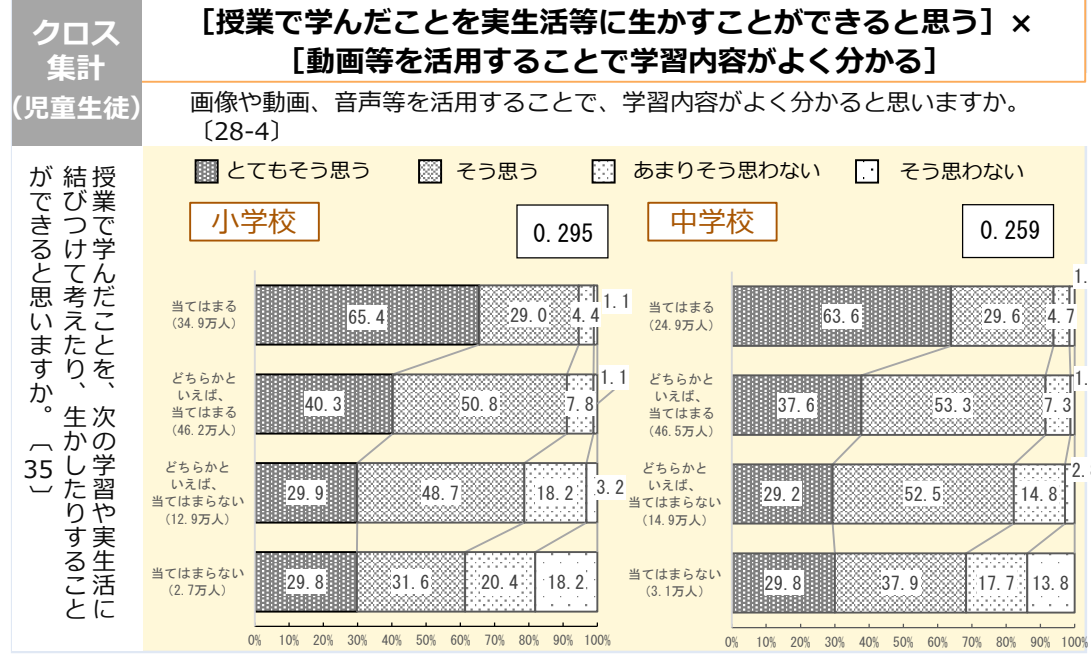
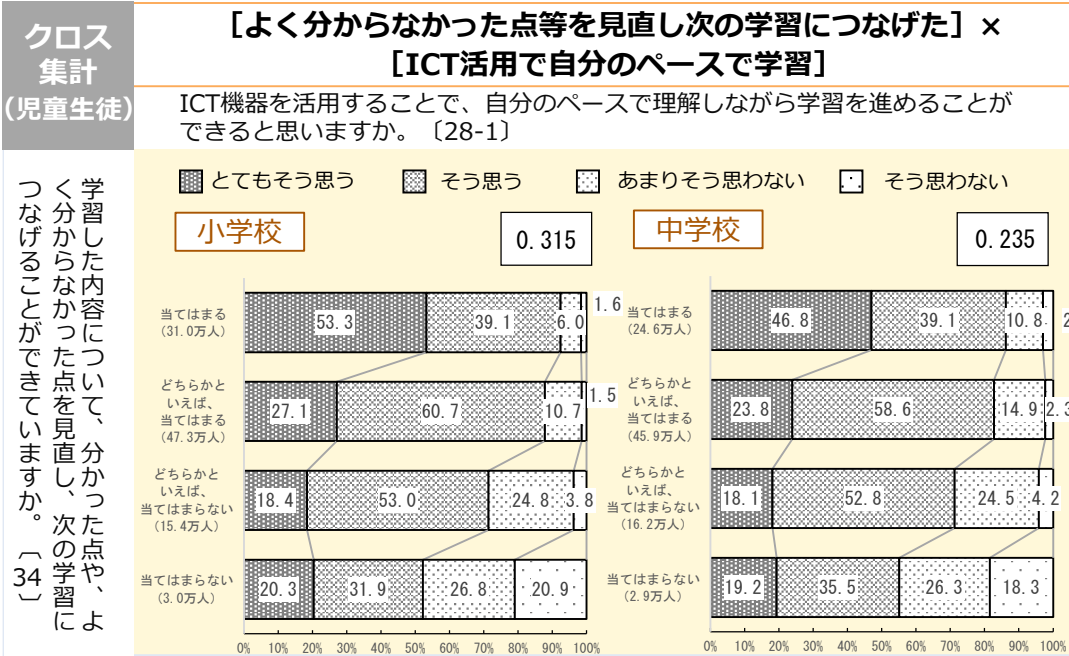


(7) 友達と協力しながら学習を進めることができる



「主体的・対話的で深い学び」と「ICT機器活用の効力感」との関係

主体的・対話的で深い学びに取り組んでいる児童生徒ほど、ICT機器活用の効力感に関して肯定的に回答している。



「ICT機器活用の効力感」と「児童生徒の挑戦心・自己有用感・幸福感等」との関係

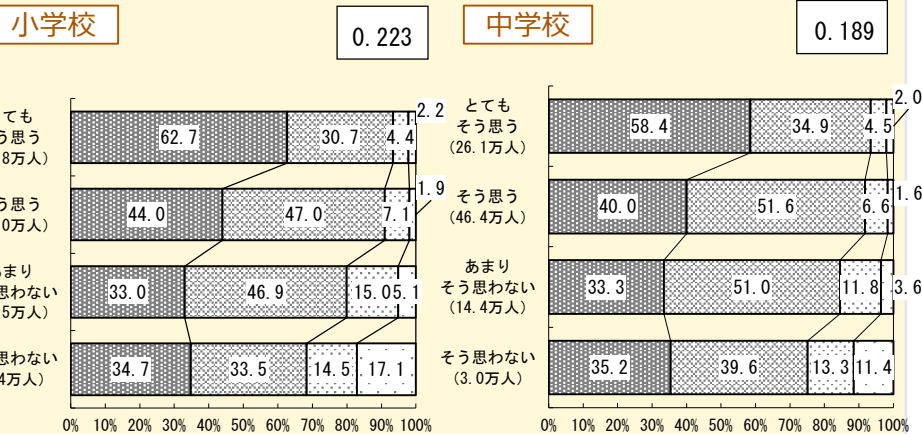
ICT機器活用の効力感に関して肯定的に回答した児童生徒ほど、挑戦心・自己有用感・幸福感等に関して肯定的に回答している。また、そのような傾向は特に低SESグループ（本が0～25冊）において見られる。

クロス集計
(児童生徒)

① [ICT活用で自分のペースで学習] × [先生がよいところを認めてくれる]

先生は、あなたのよいところを認めてくれると思いますか。〔10〕

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる
 □ どちらかといえば、当てはまらない □ 当てはまらない



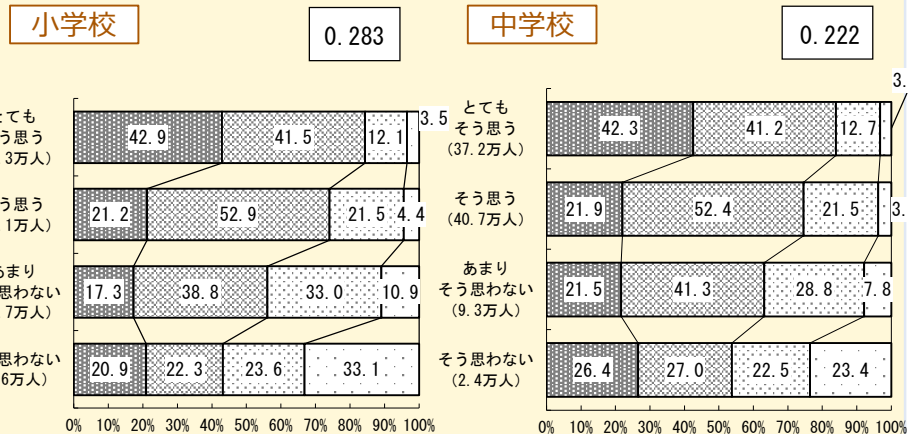
ICT機器を活用することで、自分のペースで学習を進めることができると感じていますか。〔28-1〕

クロス集計
(児童生徒)

③ [ICT活用で友達と考えを共有・比較できる] × [自分と違う考えについて考えるのは楽しい]

自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。〔17〕

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる
 □ どちらかといえば、当てはまらない □ 当てはまらない



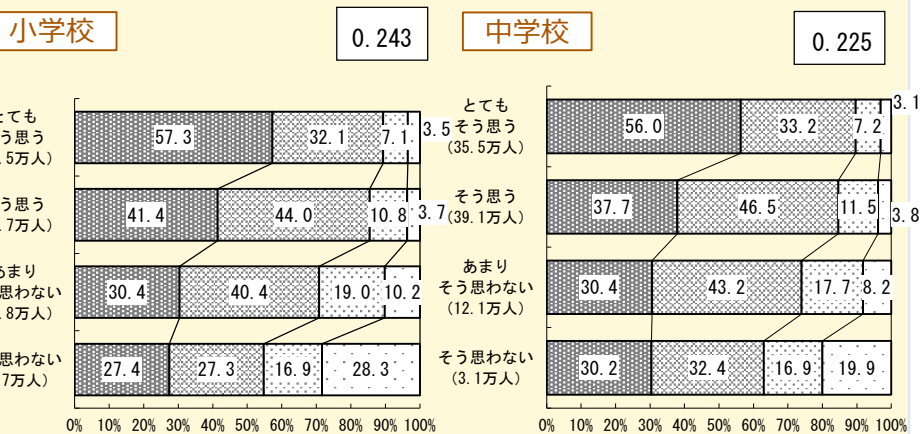
ICT機器を活用することで、友達と考えを共有したり比較したりしやすくなると思いますか。〔28-6〕

クロス集計
(児童生徒)

② [ICT活用で楽しみながら学習] × [学校に行くのは楽しい]

学校に行くのは楽しいと思いますか。〔16〕

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる
 □ どちらかといえば、当てはまらない □ 当てはまらない



ICT機器を活用することで、楽しみながら学習を進めることができると感じていますか。〔28-3〕

分析

「ICT機器活用の効力感」と「児童生徒の挑戦心・自己有用感・幸福感等」との関係について、SESごとに相関係数を見てみると、低SESグループ（本が0～25冊）のグループが最も相関係数が高くなっている。

	①		②		③	
	小学校	中学校	小学校	中学校	小学校	中学校
全体	0.223	0.189	0.243	0.225	0.283	0.222
0～25冊	0.243	0.206	0.264	0.238	0.302	0.246
26～100冊	0.216	0.183	0.234	0.221	0.276	0.214
101冊以上	0.205	0.174	0.225	0.212	0.261	0.200

(3) 学習に対する興味・関心や授業の理解度

① 理科に関する状況

ポイント

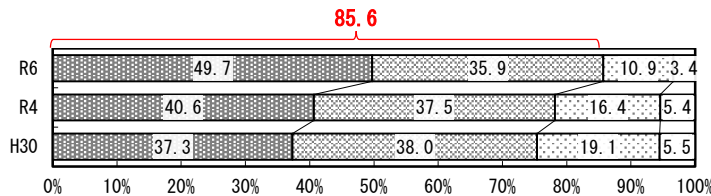
- 【p.43】理科の授業で自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てている児童生徒の割合は、前回令和4年度調査から増加した。

(※) なお、前回調査結果では、予想をもとに観察・実験をしている児童生徒ほど、理科の正答率が高く、「理科が好き」と回答している傾向が見られた。

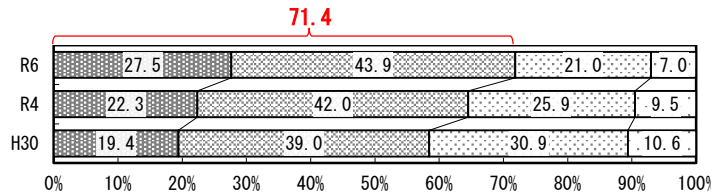
児童〔60〕 理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てて
生徒〔60〕 いますか。

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない □ 当てはまらない

小学校



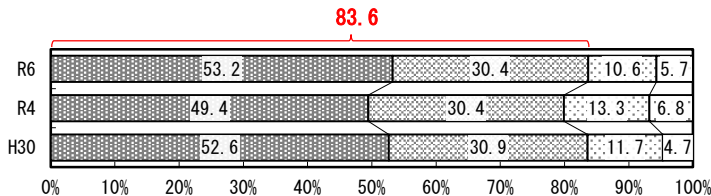
中学校



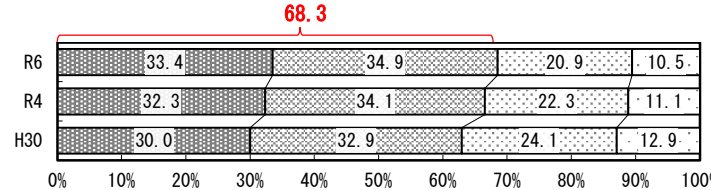
児童〔58〕 理科の勉強は好きですか。
生徒〔58〕

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない □ 当てはまらない

小学校



中学校



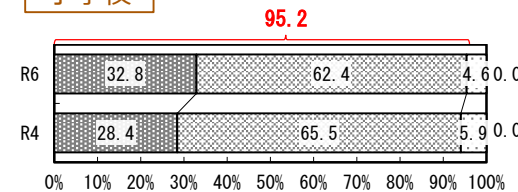
理科における「課題の発見」

- 令和4年度調査の理科の結果を活用した専門的な分析において、「課題の発見」は理科の正答率や興味・関心を向上する上で重要であることが指摘された。一方、令和6年度調査では、理科に関する疑問を持った問題を見いだしたりすることがあると受け止めている児童生徒の割合は、学校の指導状況と比較すると低い（特に中学校）。
- 各学校において、児童生徒が自ら理科に関する疑問を持った問題を見いだしたりできるよう、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどの科学的に探究する学習活動の充実が求められる。

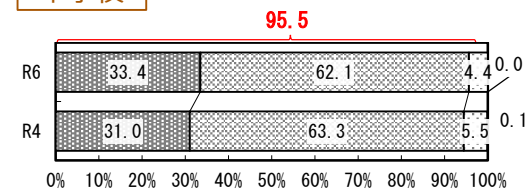
小学校〔49〕 調査対象学年の児童生徒に対する理科の授業において、前年度までに、自然の事物・現象から問題を見いだすことができる指導を行いましたか。
中学校〔49〕

■ よく行った ■ どちらかといえば、行った ■ あまり行かなかった □ 全く行かなかった

小学校



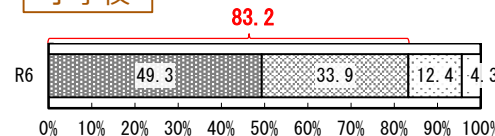
中学校



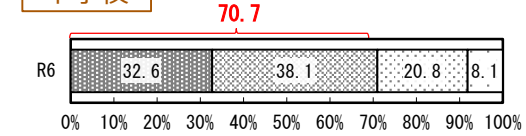
児童〔59〕 自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問を持った問題を見いだしたりすることがあります。
生徒〔59〕

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない □ 当てはまらない

小学校



中学校



(参考) 令和5年度文部科学省委託研究「理科教育における特徴的な取組等に関する分析」(受託者: 国立大学法人福島大学)

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryokuchousa/1416304_00010.html



② 英語に関する状況

ポイント

- 【p.44】英語の授業において言語活動*に取り組んだと考える生徒の割合は、増加傾向にある。

(※) なお、令和5年度調査結果では、言語活動に取り組んだと考える生徒ほど、英語の正答率が高く、「英語の勉強は好き」と回答する傾向が見られた。

*実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合うなどの活動。

学校の指導状況

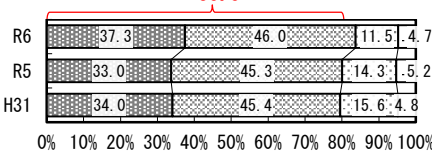
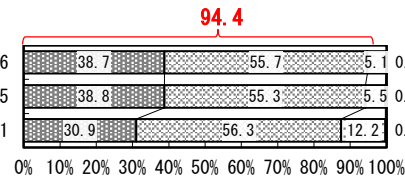
■ よく行った □ どちらかといえば、行った
□ あまり行わなかった □ 全く行わなかった

中学校生徒の受け止め

■ 当てはまる □ どちらかといえば、当てはまる
□ どちらかといえば、当てはまらない □ 当てはまらない

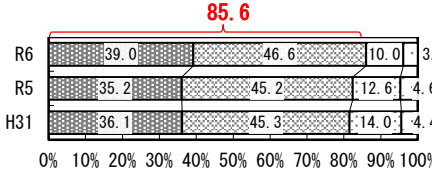
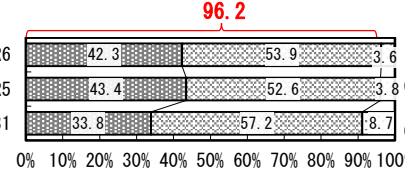
聞く

英語を聞いて（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる言語活動を行ったか。
中学校〔52〕生徒〔61〕



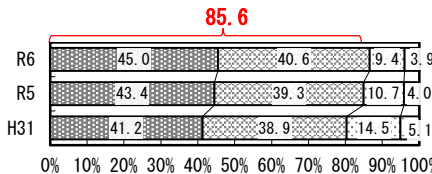
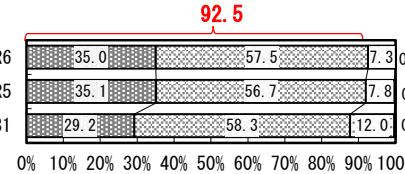
読む

英語を読んで（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる言語活動を行ったか。
中学校〔53〕生徒〔62〕



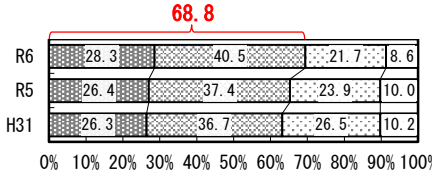
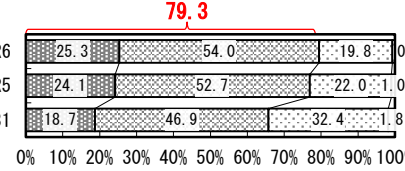
書く

自分の考えや気持ちなどを英語で書く言語活動を行ったか。
中学校〔56〕生徒〔65〕



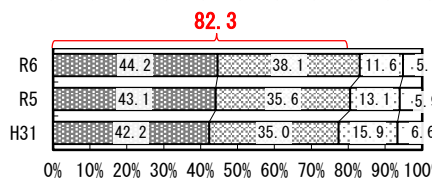
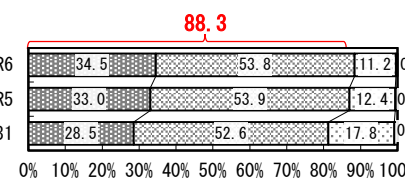
話す (やり取り)

原稿などの準備をすることなく、（即興で）自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う言語活動を行ったか。
中学校〔54〕生徒〔63〕



話す (発表)

スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する言語活動を行ったか。
中学校〔55〕生徒〔64〕



言語活動と社会経済的背景（SES）と英語力

令和5年度調査の英語の結果を活用した専門的な分析において、言語活動に取り組んだ生徒は、社会経済的背景（SES）が低い状況にあっても、英語の正答率が高い傾向が見られた。

○社会経済的背景（SES）と英語力の関係

- ・SESが低い場合であっても、言語活動が行われていたり、英語学習の興味・関心や授業の理解度が高かったりする場合は、英語力が高くなっており、SESの影響よりも英語授業の効果等の影響は大きい。

○SESが低く英語力の高い学校の英語授業

- ・SESが低く英語力の高い学校の訪問調査では、やり取りを中心とした授業展開が多く、言語活動を中心しつつ、語彙や文法事項などの正確さに焦点を置いた練習が豊富に行われていた。

(参考) 令和5年度文部科学省委託研究「令和5年度全国学力・学習状況調査の英語の結果を活用した専門的な分析」(受託者: 横浜国立大学)

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuyoku-chousa/1416304_00010.html



3. 質問調査結果（児童生徒、学校）

※ 内の数字は相関係数

R6

(4) 児童生徒の挑戦心・自己有用感・幸福感等に関する状況

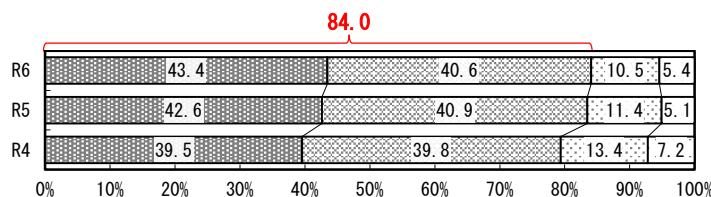
ポイント

- 【p.45】 「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいあるか」の質問に、約90%の児童生徒が肯定的に回答。
- 【p.45】 「地域や社会をよくするために何かしてみたいか」の質問に肯定的に回答した児童生徒は、小学校で84%（前年比7ポイント増）、中学校で76%（前年比12ポイント増）。

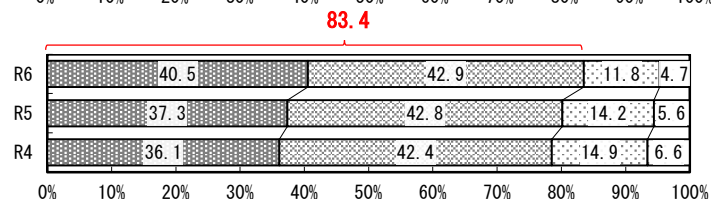
児童〔9〕 生徒〔9〕 自分には、よいところがあると思いますか。

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない

小学校



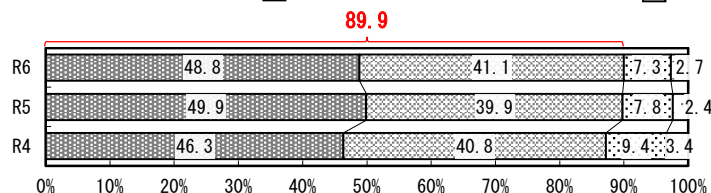
中学校



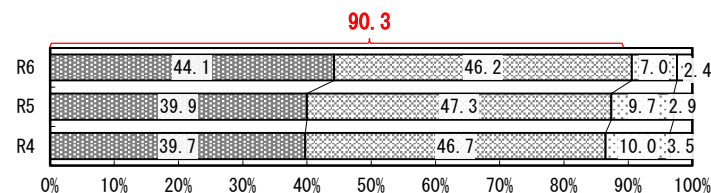
児童〔10〕 生徒〔10〕 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない

小学校



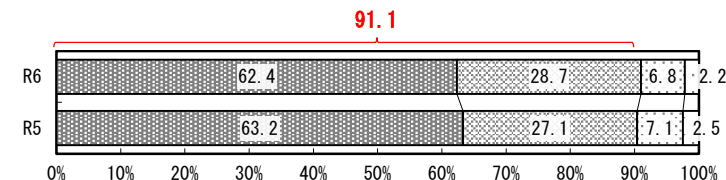
中学校



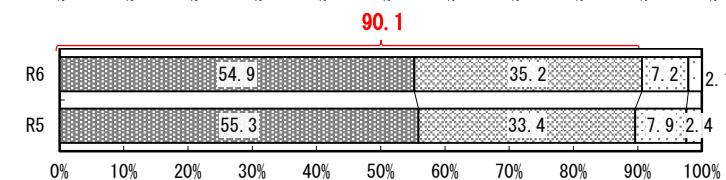
児童〔18〕 生徒〔18〕 友達関係に満足していますか。

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない

小学校



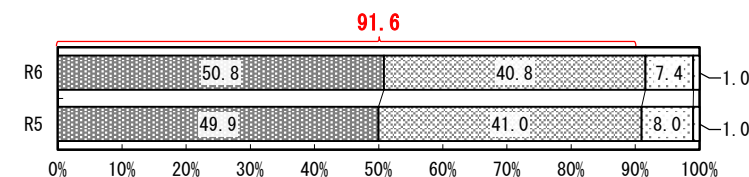
中学校



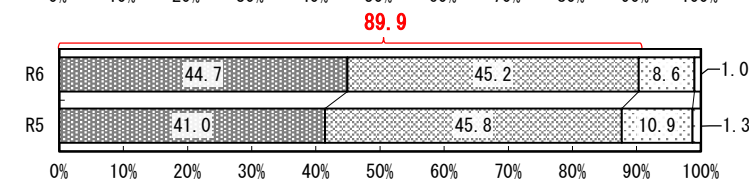
児童〔19〕 生徒〔19〕 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。

■ よくある ■ ときどきある ■ あまりない ■ 全くない

小学校



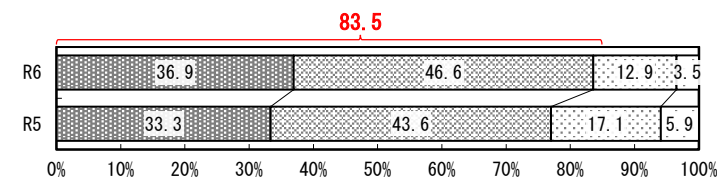
中学校



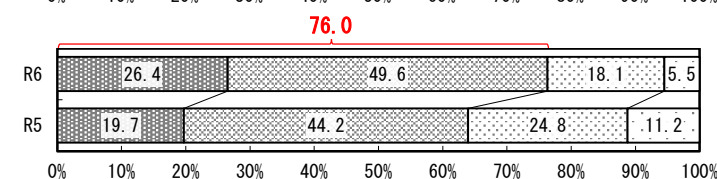
児童〔25〕 生徒〔25〕 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。

■ 当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまる ■ どちらかといえば、当てはまらない ■ 当てはまらない

小学校



中学校



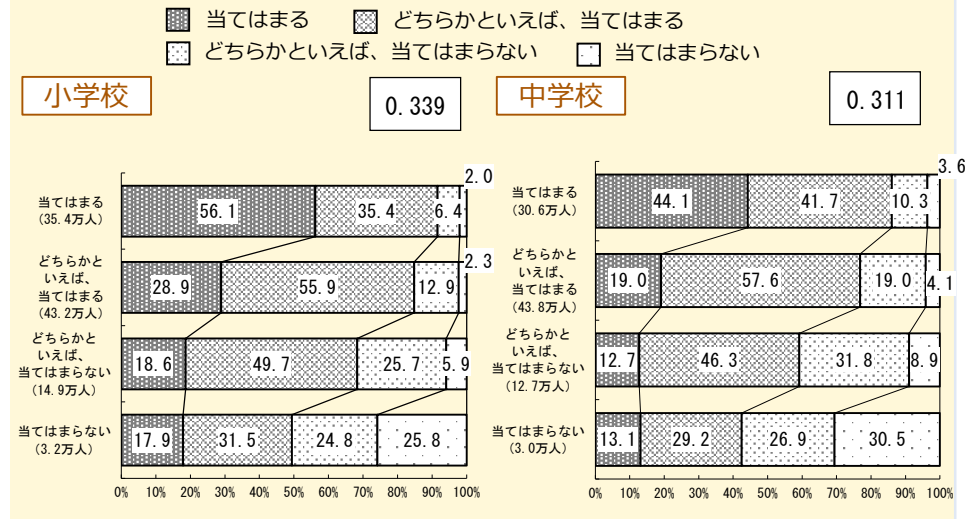
- 児童生徒質問〔25〕「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」は、「持続可能な社会の創り手」を育むという学習指導要領前文の趣旨に関して児童生徒自身の考えを尋ねる質問項目とも言える。
- 〔25〕は児童生徒の社会経済的背景（SES）や各教科の正答率と相関は見られない一方で、授業で学んだことを次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができると思う児童生徒ほど、〔25〕にも肯定的に回答している傾向がある。また、「総合的な学習の時間」「学級活動」への取組状況と〔25〕の回答状況にも相関が見られる。
- これらのことを踏まえると、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善や総合的な学習の時間、学級活動の取組は、児童生徒の「地域や社会をよくするために何かしてみたい」という考えの形成に影響を与えている可能性がある。

クロス集計
(児童生徒)

総合的な学習の時間では、自分ですべての情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。〔38〕

【総合的な学習の時間】×
【地域や社会をよくするために何かしたい】

地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。〔25〕



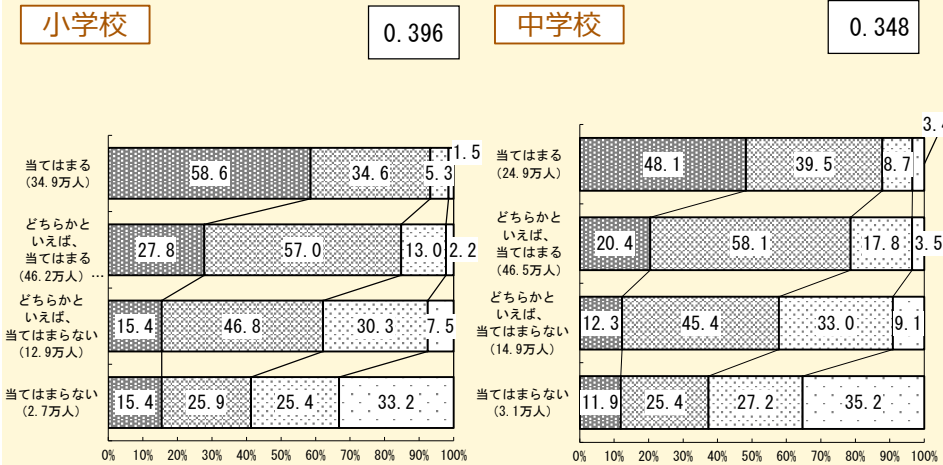
クロス集計
(児童生徒)

【授業で学んだことを実生活等に生かすことができると思う】×
【地域や社会をよくするために何かしたい】

地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。〔25〕

当てはまる どちらかといえば、当てはまる
どちらかといえば、当てはまらない 当てはまらない

授業で学んだことを、生かしたりすることができると考えていますか。〔35〕



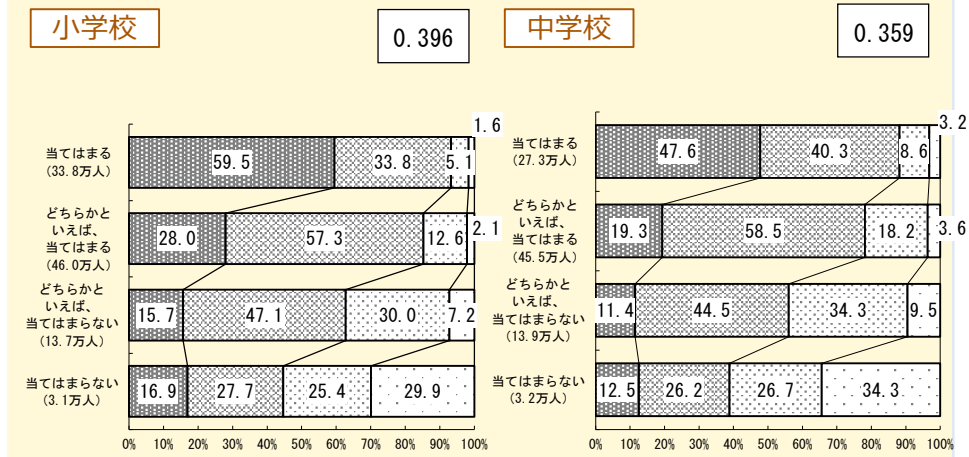
クロス集計
(児童生徒)

学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか。〔40〕

【学級活動を生かして努力している】×
【地域や社会をよくするために何かしたい】

地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。〔25〕

当てはまる どちらかといえば、当てはまる
どちらかといえば、当てはまらない 当てはまらない



(5) 学校外での過ごし方（勉強時間、テレビゲーム等の時間）

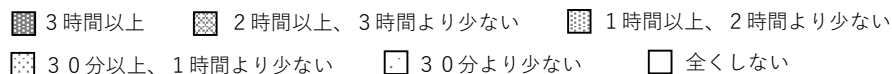
ポイント

- 【p.47】 学校の授業時間以外における児童生徒の勉強時間は、小中とも令和3年度以降、平日、休日いずれも減少傾向。
 (※) 勉強時間と学力の推移の関係については、経年変化分析調査の結果も踏まえながら分析予定（例えば、児童生徒が自ら学び方を考え、短い時間で質の高い学習を行えるようになったなど、学び方やICT機器活用が勉強時間に影響を与えている可能性もある。）。
- 【p.48】 テレビゲーム*をする時間は小・中学生とも横ばい、SNS・動画視聴の時間は、小学生は横ばい、中学生は微増の傾向。
 *コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む。

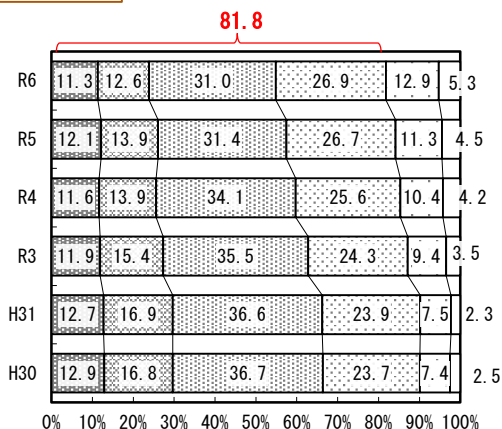
平日の勉強時間

児童〔21〕
生徒〔21〕

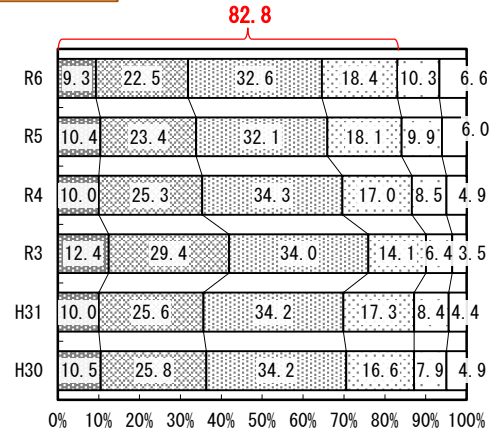
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）。



小学校



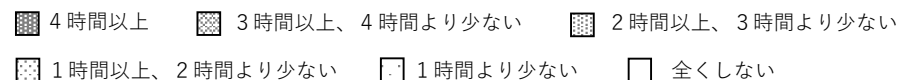
中学校



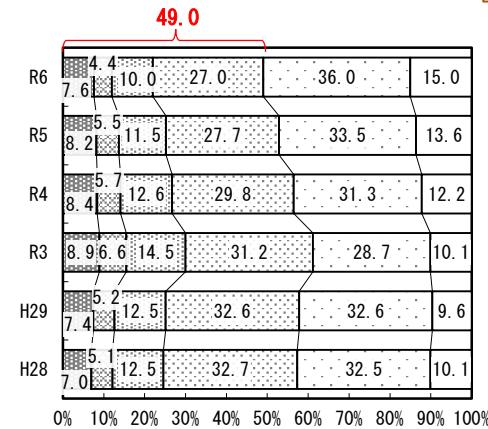
休日の勉強時間

児童〔22〕
生徒〔22〕

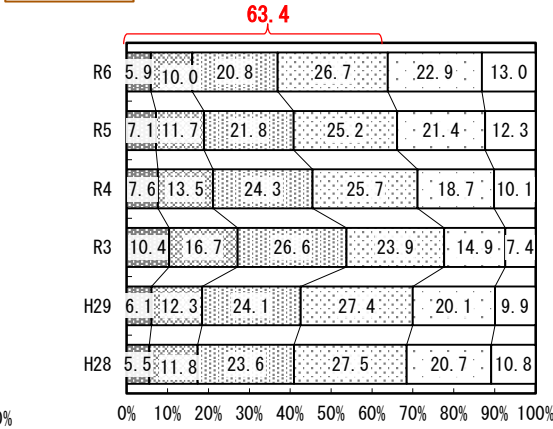
土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）。



小学校

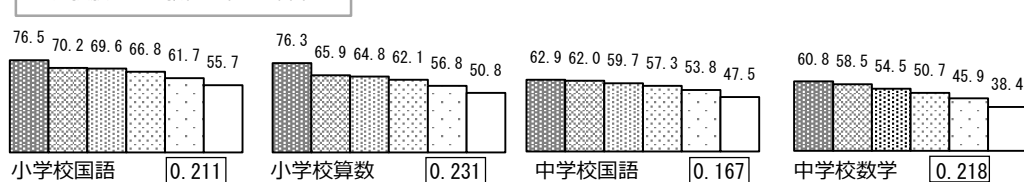


中学校



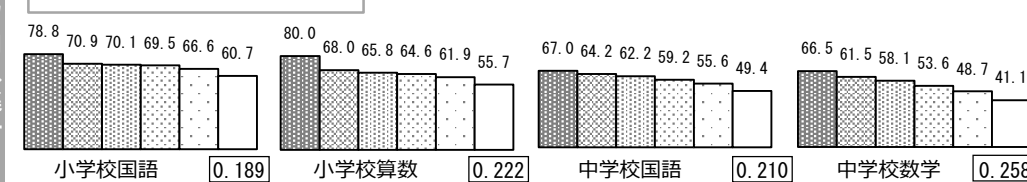
クロス集計

選択肢ごとの教科の平均正答率



クロス集計

選択肢ごとの教科の平均正答率

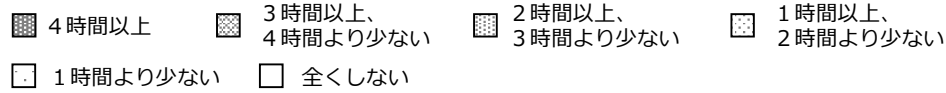


テレビゲーム*

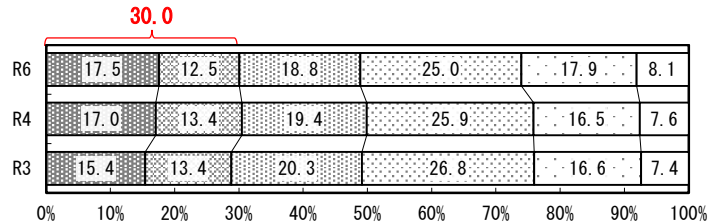
*コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む。

児童〔5〕
生徒〔5〕

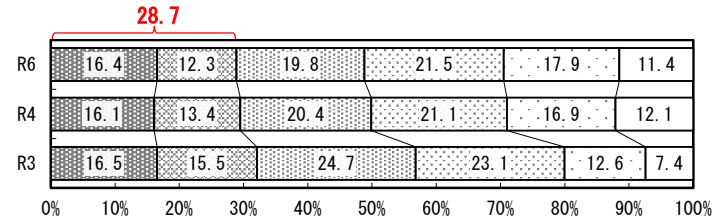
普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか。



小学校



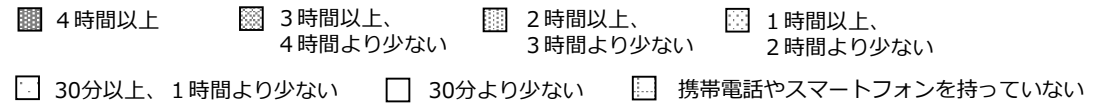
中学校



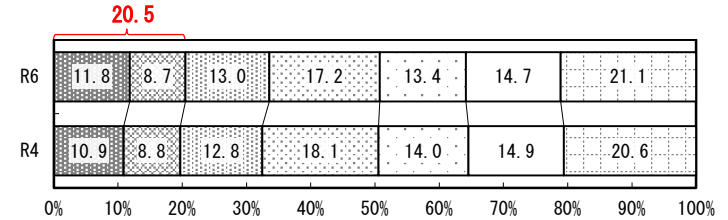
SNS・動画視聴

児童〔6〕
生徒〔6〕

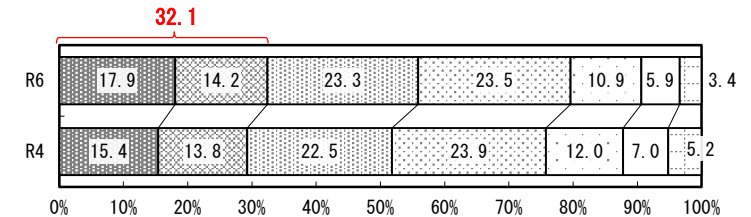
普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンでSNSや動画視聴などをしますか（携帯電話やスマートフォンを使って学習する時間やゲームをする時間は除く）。



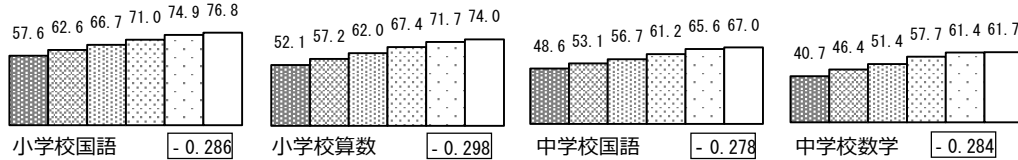
小学校



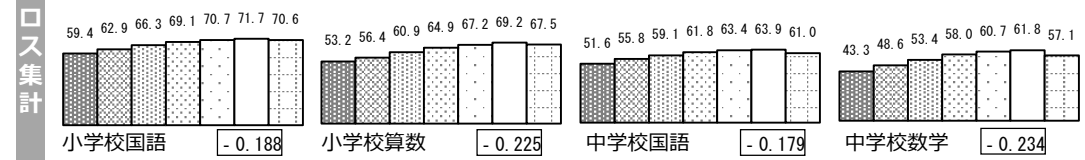
中学校



選択肢ごとの教科の平均正答率



選択肢ごとの教科の平均正答率

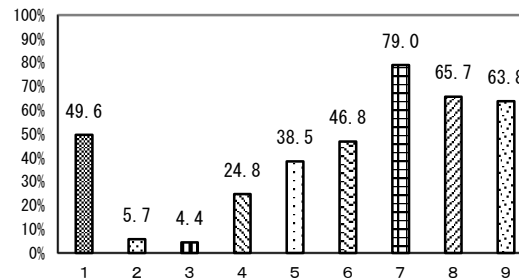


（参考）OECD生徒の学習到達度調査（PISA2022）においても、日本もOECD平均も、SNSやデジタルゲームに費やす時間が一定程度を超えると、3分野（数学的リテラシー、読解力、科学的リテラシー）の得点は低下する傾向が確認されている。
https://www.nier.go.jp/kokusai/pisa/pdf/2022/01_point_2.pdf

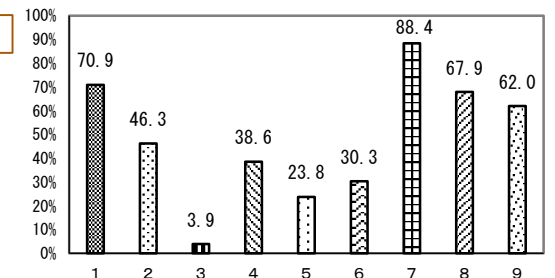
児童〔26〕
生徒〔26〕 放課後や週末に何をしてお過ごしが多いですか。（複数回答）

- 1.【小】家で勉強や読書をしている 【中】学校の部活動に参加している
- 2.【小】放課後子供教室や放課後児童クラブ（学童保育）に参加している 【中】家で勉強や読書をしている
- 3.地域の活動に参加している（地域学校協働本部や地域住民などによる学習・体験プログラムを含む）
- 4.学習塾など学校や家以外の場所で勉強している
- 5.習い事（スポーツに関する習い事を除く）をしている
- 6.スポーツ（スポーツに関する習い事を含む）をしている
- 7.家でテレビや動画を見たり、ゲームをしたり、SNSを利用したりしている
- 8.家族と過ごしている
- 9.友達と遊んでいる

小学校



中学校



「テレビゲーム*」「SNSや動画視聴」を平日に1日3時間以上している児童生徒の過ごし方

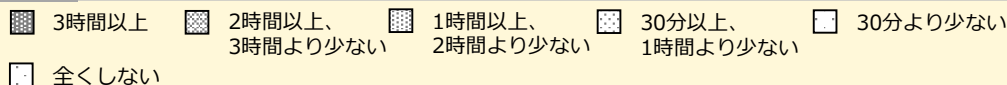
*コンピュータゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む。

- 普段テレビゲームをする時間が1日当たり3時間以上であるグループ（児童生徒の約30%）は、1日当たり3時間未満のグループより勉強時間が短く、毎日同じくらいの時刻に寝ていないという傾向が見られる。
- また、小学校児童の約21%、中学校生徒の約32%が、普段1日当たり3時間以上SNSや動画視聴などをすると回答した。このような児童生徒の過ごし方についても、テレビゲームと同様の傾向が見られた。

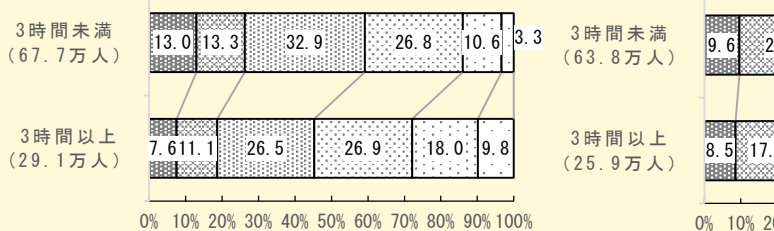
クロス集計

【テレビゲーム】×【平日の勉強時間】

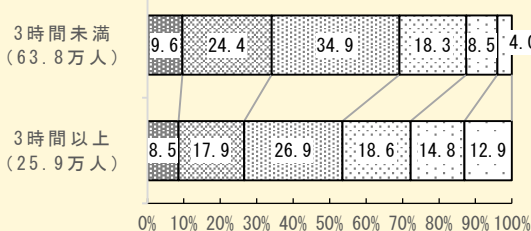
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）。〔21〕



小学校



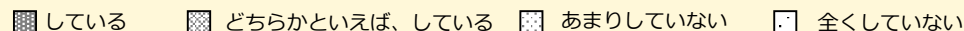
中学校



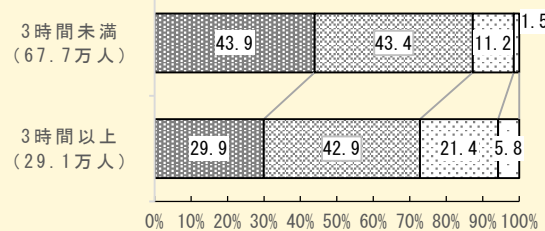
クロス集計

【テレビゲーム】×【就寝時刻】

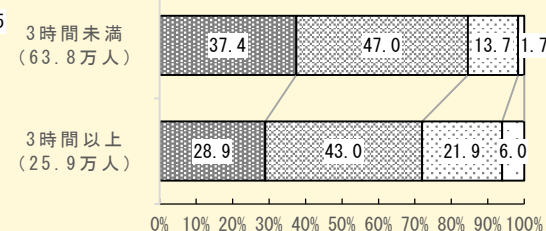
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。〔2〕



小学校



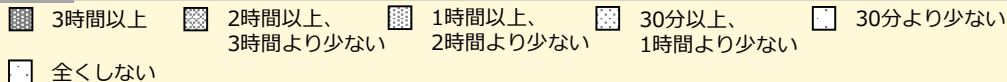
中学校



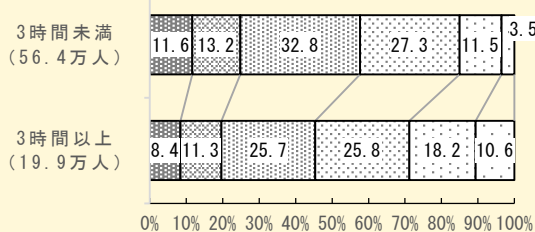
クロス集計

【SNS・動画視聴】×【平日の勉強時間】

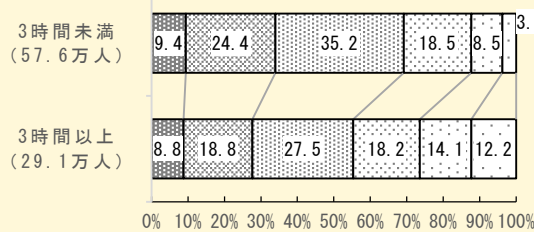
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）。〔21〕



小学校



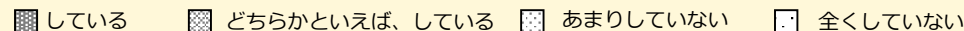
中学校



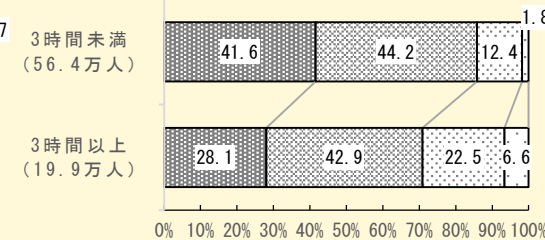
クロス集計

【SNS・動画視聴】×【就寝時刻】

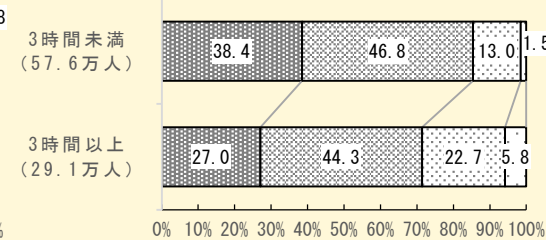
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか。〔2〕



小学校



中学校



1 調査結果を活用した追加分析等

○ 令和6年度までの調査の結果を活用した追加分析

- 全国学力・学習状況調査の目的の達成に資するため、大学等の研究機関等の専門的な知見を活用した高度な分析に関する調査研究を委託にて実施。

○ 個票データの貸与

- 大学等の研究者による多様な学術研究の分析等を促進するため、個票データ等の貸与を実施。

2 学習指導要領の着実な実施

○ 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

- 学習指導要領の趣旨・内容の周知・徹底（各都道府県等の指導主事を対象とした協議会の開催）。
- 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた取組を進めている学校の好事例を周知。
- 学力向上やカリキュラム・マネジメントに関する成果のとりまとめ・周知。
- 初等中等教育段階からの理数系教育に興味・関心をもつ人材の育成を推進するため、令和6年度より「理数好きな児童・生徒を育てる探究学習推進プラン」を実施。

○ 指導改善に資する情報提供等（国立教育政策研究所）

- 報告書（授業アイデア例を含む）を作成し、国立教育政策研究所のWebサイトに掲載（教育委員会や学校等で学習指導の改善・充実を図る際に活用）。
- 全国説明会（各教育委員会、教員養成大学等対象）を開催し、学習指導の改善・充実のポイントを解説（令和6年8月20日（火）オンライン開催）。
- オンラインなども活用しながら、学力調査官等による教育委員会や学校への指導・助言を実施。
- 令和5年度の全国学力・学習状況調査の結果を踏まえて、中学校英語の指導事例集を作成し、Webサイトに掲載（令和7年3月頃を予定）。

3 児童生徒の豊かな心をはぐくむ取組の推進

- 道徳教育や特別活動、体験活動、生徒指導など学校教育活動全体を通じて児童生徒の豊かな心をはぐくむ取組を推進。
- 保護者等を対象とした子供のインターネット等の適切な利用について理解を深める取組を推進。

4 GIGAスクール構想の更なる取組の推進

○ 自治体・学校への伴走支援の取組

- GIGA StuDX推進チームによる研修の実施、自治体の課題に応じた支援の提案。
- リーディングDXスクール事業において、効果的な実践例を創出・モデル化し、その横展開の推進。
- 国費による学校DX戦略アドバイザーの派遣等による支援。
- 学校種別の授業動画など、切れ目のない研修コンテンツの提供。

○ 学校のICT環境整備の推進

- 更なる活用に向け、端末の着実な更新や学校のネットワークの改善を推進。

○ 校務DXの推進

- 令和6年から3年程度を集中取組期間と位置付け、校務DXにより教職員の働き方改革や教育活動の高度化等を推進。

○ 学校のICT環境を活用した取組

- 1人1台端末を活用した児童生徒の悩みや不安の早期発見・支援を推進するとともに、ICTを活用した学習も含め、不登校児童生徒が行った学習の成果を成績に反映することができることを法令上明確化するための法令改正を実施予定。
- 特別な支援を要する児童生徒に対するICT機器を活用した指導方法を、教員が模擬授業などの演習を通じて体験的に学ぶ機会の提供。
- 外国人児童生徒等に対するICTを活用した日本語指導等を実施する自治体を補助事業により支援。

5 教師を取り巻く環境整備

- 学校における働き方改革の更なる加速化、教師の処遇改善、学校の指導・運営体制の充実、教師の育成支援の一体的推進。
- 小学校における35人学級の計画的整備や高学年教科担任制の強化等のための教職員定数の改善、教員業務支援員の全小・中学校への配置等の支援スタッフの充実に係る支援。
- 管理職のマネジメント力強化を含む研修の充実。
- コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な取組の推進。